

HP Asset Manager

ソフトウェアバージョン : 5.10

ソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合

ドキュメントリリース日 : 16 September 2008
ソフトウェアリリース日 : September 2008



法的制限事項

著作権

(c) Copyright 1994-2008 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211 および 12.212 準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

保証

HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HP は本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

商標

- Adobe®, Adobe logo®, Acrobat® and Acrobat Logo® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Mobile® and Windows Vista® are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	11
Asset Managerとソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合とは	11
Asset Managerとソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合の対象者は	12
どのソフトウェア配布および構成管理ツールがAsset Managerと統合可能か?	12
このガイドの内容	12
このガイドの利用方法	14
このガイドで使用する表記規則	15
I. HP Client Automationとの統合	17
1. 概要	19
概要	19
用語	21
導入プロセス	22
オブジェクト間の相互作用	26
2. 必要なコンポーネントの実装	29
必要なコンポーネント	29
オプションのコンポーネント	35

3. 参照情報の作成と更新	43
コンピュータ	43
ユーザアカウント	45
コンピュータグループ	46
ドメイン	47
メディア	48
ソフトウェアパッケージ	49
4. ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除	51
ソフトウェアの追加または削除	51
ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除	55
ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示をHP Client Automationへ転送	58
ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示のHP Client Automationへの転送をチェック	58
ジョブの実行をHP Client Automationでチェック	59
ソフトウェアの使用権限を付与または削除する作業指示のHP Client Automationへの転送と実行	59
ソフトウェアの使用権限を付与または削除する作業指示のHP Client Automationへの転送と実行のチェック	60
II. LANDesk Management Suiteとの統合	61
5. 概要	63
ソフトウェア配布プロセスの内容	63
ソフトウェア配布で 사용되는メインテーブル	69
6. 必要なコンポーネントの実装	71
Asset Manager	71
LANDesk Management Suite	73
HP Device and Dependency Mapping	73
HP Connect-It	73
Asset Manager Automated Process Manager	74
7. 参照情報の作成と更新	75
ターゲットコンピュータ	75
配布パッケージおよびスクリプト	76

配信方法	77
8. ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布	79
Asset Managerでのスケジュールされたタスクの作成	79
新しいスケジュールされたタスクのLANDesk Management Suiteへの転送	81
スケジュールされたタスクのLANDesk Management Suiteへの転送のチェック	81
LANDesk Management Suiteによるスケジュールされたタスクの実行のチェック	82
III. その他のソフトウェア配布ツールとの統合	85
9. LANDesk Management Suite統合の別のソフトウェア配布ツールへの適用	87
プロセスの適用	87
HP Connect-Itシナリオの適用	87
Asset Manager Automated Process Managerモジュールの適合	88
IV. 付録	89
A. 用語集	91
HP Client Automationの統合に特有の専門用語	91
LANDesk Management Suiteの統合に特有の専門用語	95
B. 参考情報	97
メニュー、ナビゲーションバーおよびタブ	97
ツールバーアイコン	103
インタフェースオプション	103
テーブル	103
テーブル間の依存関係	105
リストデータ	107
特殊フィールド	108
カウンタ	108
アクションおよびウィザード	109
Asset Manager Automated Process Managerモジュール	111
システムデータと専門分野データ	112
レポート	113

API	113
ビュー	113
その他のドキュメント	114
ワークフロースキーム	115

索引	117
---------------------	------------

図の一覧表

1.1. 導入プロセスの手順	22
1.2. 導入プロセス時のデータの相互作用	27
5.1. コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用する場合のソフトウェア配布プロセス	66
5.2. コンピュータのスキャンにLANDesk Management Suiteを使用する場合のソフトウェア配布プロセス	69
5.3. ソフトウェア配布で使用されるテーブル	70

表の一覧表

2.1. HP Client Automationとの統合 - 必要なユーザライセンス	30
6.1. ソフトウェア配布モジュール - 必要なユーザのライセンス	72
B.1. メニューとタブ (HP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合の場合)	97
B.2. メニューとタブ (HP Client Automation)	99
B.3. メニューとタブ (LANDesk Management Suite)	102
B.4. テーブル (HP Client Automationとの統合)	103
B.5. テーブル (LANDesk Management Suiteとの統合)	104
B.6. テーブル間の依存関係 (HP Client Automationとの統合)	106
B.7. テーブル間の依存関係 (LANDesk Management Suiteとの統合)	106
B.8. リストデータ (HP Client Automationとの統合)	107
B.9. リストデータ (LANDesk Management Suiteとの統合)	107
B.10. 特殊フィールド (HP Client Automationとの統合)	108
B.11. アクションとウィザード (HP Client Automationとの統合)	109
B.12. アクションとウィザード (LANDesk Management Suiteとの統合)	110
B.13. その他のドキュメント - リスト	114
B.14. ワークフロースキーム - リスト	115

はじめに

Asset Managerとソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合とは

このタイプの統合の内容は次のとおりです。

- 1 Asset Managerは、以下を作成することにより、ソフトウェアの配布ツールと構成管理ツールの*pilot*（導入）に使われます。
 - HP Client Automationとの統合：導入作業指示



注意:

導入作業指示：

- 選択したターゲットコンピュータにソフトウェアを追加、または選択したターゲットコンピュータからソフトウェアを削除します。
 - ソフトウェアを使用する権利を、コンピュータ、コンピュータグループ、ドメインまたはユーザアカウントに割り当てまたは割り当て解除します。
- LANDesk Management Suiteとの統合：スケジュールされたタスク



注意:

スケジュールされたタスクは、ターゲットコンピュータセットへのソフトウェアパッケージの配布やターゲットコンピュータセットでのスクリプトの実行に使用されます。

- 2 配布ツールは、**Asset Manager**で作成された、導入作業指示やスケジュールされたタスクの**実行**に使用されます。

Asset Managerとソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合の対象者は

Asset Managerとソフトウェア配布ツールおよび構成管理ツールとの統合は、ソフトウェア配布を担当するITチームがその対象です。

どのソフトウェア配布および構成管理ツールがAsset Managerと統合可能か?

次のツールが使用できます。

- **HPが直接統合しているツール**

複数のツールが統合済みです。

現時点では、以下のツールが統合済みです。

- HP Client Automation
- LANDesk Management Suite

Asset Managerと統合可能な複数のソフトウェア配布および構成管理ツールが、今後の標準リリースのバージョンに追加されます。

- **ユーザが自分で統合できるツール**

Asset Managerと他ツールとの統合は、標準のプロセスおよびコンポーネントをそのツールに適合させた場合に可能になります。

このガイドの内容

「HP Client Automationとの統合」のセクション

「概要」の章

この章では、Asset ManagerとHP Client Automationの統合の概要を説明します。この説明には、ソフトウェアの追加／削除のプロセス、ソフトウェアに対するユーザ権限の付与／削除の方法、ライセンス権限のチェック、これらのプロセスで使われる主要テーブルのリストが含まれます。

「必要なコンポーネントの実装」の章

この章では、Asset ManagerとHP Client Automationの統合に必要なコンポーネントの実装の方法を説明します。これらのコンポーネントには、Asset Manager、HP Client Automation、スキャンツール、HP Connect-It、Asset Manager Web、Java J2SDK、Apache AXIS、Apache ANT、Asset Manager Automated Process Manager、ソフトウェアライセンスチェックモジュールが含まれます。

「参照情報の作成と更新」の章

この章では、参照情報の作成と更新の方法について説明します。この参照情報には、コンピュータ、ユーザアカウント、コンピュータグループ、ドメイン、ソフトウェアパッケージ、メディアが含まれます。

「ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除」の章

この章では、ソフトウェアの追加と削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除の方法について説明します。これには、導入作業指示の作成、伝達、実行、チェックが含まれます。

「LANDesk Management Suiteとの統合」

「概要」の章

この章では、Asset ManagerとLANDesk Management Suiteの統合の概要について説明します。配布プロセスの説明と、ソフトウェアの配布で使用するメインテーブルの一覧を示します。

「必要なコンポーネントの実装」の章

この章では、Asset ManagerとLANDesk Management Suiteの統合に必要なコンポーネントの実装方法について説明します。これらのコンポーネントには、Asset Manager、LANDesk Management Suite、HP Device and Dependency Mapping、HP Connect-ItおよびAsset Manager Automated Process Managerが含まれます。

「参照情報の作成と更新」の章

この章では、参照情報（ターゲットコンピュータ、配布パッケージおよびスクリプト、配信方法）の作成方法と更新方法について説明します。

「ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布」の章

この章では、ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布方法（スケジュールされたタスクの作成、転送、実行）について説明します。

「その他のソフトウェア配布ツールとの統合」

「**LANDesk Management Suite**統合の別のソフトウェア配布ツールへの適用」の章

この章では、Asset ManagerとLANDesk Management Suiteの統合に使用する標準プロセスの変更方法と、その結果としてのHP Connect-Itシナリオの適用方法について説明します。

「付録」

付録「用語集」

Asset Managerとソフトウェア配布ツールの統合で使用する主な用語の定義を示します。

付録 [参考情報]

Asset Managerとソフトウェア配布ツールの統合に関する参照情報を示します。

このガイドの利用方法

それぞれの役割に応じて、このガイドにはさまざまな利用方法があります。ここではLANDesk Management Suiteに対する例を示します。

LANDesk Management Suite統合の担当者

- 1 「概要 [献 63]」の章
- 2 「必要なコンポーネントの実装 [献 71]」の章

参照情報の更新の担当者

- 1 「概要 [献 63]」の章
- 2 「参照情報の作成と更新 [献 75]」の章

スケジュールされたタスクの作成の担当者

- 1 「概要 [献 63]」の章
- 2 「ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布 [献 79]」の章

LANDesk Management Suite統合のカスタマイズの担当者

- 1 「概要 [献 63]」の章
- 2 「必要なコンポーネントの実装 [献 71]」章
- 3 「参照情報の作成と更新 [献 75]」の章
- 4 付録「用語集 [献 91]」
- 5 「ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布 [献 79]」の章
- 6 付録「参考情報 [献 97]」

このガイドで使用する表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用しています。

表記規則	説明
Java Scriptコード 等幅フォント	コードやコマンドの例 DOSコマンド、関数のパラメータ、またはデータフォーマット
...	コードまたはコマンドの省略部分
注意: 補足情報	注意事項
重要項目: 以下の注意事項は...	重要な情報
ヒント: 使用上のヒント...	アプリケーション使用時に役立つヒント
警告: 警告情報	特に注意が必要な情報
[オブジェクト名]	Asset Managerのインタフェースのオブジェクト：メニュー、タブ、ボタン

次の表記方法も使用しています。

- 指定した順番で実行するステップは、次の例のように番号を付けて表示されます。
 - 1 手順1
 - 2 手順2
 - 3 手順3
- 図や表には、各章ごとに順番に番号が付いています。例えば、第2章の4番目の表のタイトルは、**表2-4**というように表されます。

I HP Client Automationとの統合

1 概要

概要

このセクションでは、HP Client AutomationとAsset Manager間のさまざまな統合のレベルについて詳しく説明します。

HP Client AutomationとAsset Manager間の参照データの同期

統合のこの部分では、HP Client AutomationとAsset Manager間の参照データを同期させます。

Asset ManagerとHP Client Automationのデータが同じになるように、データを定期的に同期させる必要があります。

次の表に参照データを表示します。

HP Client Automation内の参照データ	Asset Manager内の同等データ
<i>Devices</i> : コンピュータ	【外部識別子】 (ExtPfiId) フィールド値が空でない【ポートフォリオ品目】 (amPortfolio) テーブルのレコード。このレコードは、【機器のタイプ】 (seComputerType) フィールドがコンピュータに等しい属性にリンク

HP Client Automation内の参照データ

Persons : ユーザ

Groups of devices : デバイスとグループから構成されたセット

Domains : デバイス、ユーザアカウントおよびデバイスのグループは、ブランチがドメインを表すツリー構造として階層的に構成されています。

Services : サービスは、他のソフトウェアを操作するために使用されるメディアを定義します。

HP Client Automationは、デバイスまたはデバイスのグループにソフトウェアを追加/削除するサービスを使用します。

Policies : ポリシーは、デバイス別、ユーザアカウント別、デバイスグループ別、ドメイン別に、ソフトウェアへのアクセスを付与（正の優先度）または拒否（負の優先度）するために使用されます。

Jobs : ジョブは、ソフトウェアのインストールまたは除去のための作業指示を記述します。

Asset Manager内の同等データ

【外部識別子】 (ExtPfiId) フィールド値が空でない【ポートフォリオ品目】 (amPortfolio) テーブルのレコード。このレコードは、【ユーザアカウント】 (bUserAccount) フィールドが選択されてユーザにリンクしている属性にリンク。

【外部識別子】 (ExtPfiId) フィールド値が空でなく、【機器のタイプ】 (seComputerType) フィールドがコンピュータグループに等しい属性にリンクしている【ポートフォリオ品目】 (amPortfolio) テーブルのレコードです。

【外部識別子】 (ExtPfiId) フィールド値が空でなく、【機器のタイプ】 (seComputerType) フィールドがドメインに等しい属性にリンクしている【ポートフォリオ品目】 (amPortfolio) テーブルのレコードです。

【メディア】 (bSetUpMedia) チェックボックスが選択されている属性にリンクされていて、【構成管理メディア】 (bCMService) チェックボックスが選択されているモデルにリンクされている【ソフトウェアのインストールまたは使用】 (amSoftInstall) テーブルのレコード。メディアはソフトウェアパッケージとしてグループ化されます。

【構成管理で使用】 (bAutomated) チェックボックスが選択されている【特定資格】 (amEntitlement) テーブルのレコード

【作業指示タイプ】 (seWorkOrderType) フィールドが「その他」以外の値をもつ属性にリンクしていて、【構成管理で使用】 (bAutomated) チェックボックスが選択されている【作業指示】 (amWorkOrder) テーブルのレコード。

各作業指示は、【導入タスク】 (amCMTargetTask) テーブルのレコードに関連付けられています。

導入作業指示の作成

統合のこの部分は、HP Client Automationによって実行を処理する操作を記述した導入作業指示を作成します。

- ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアの削除
- ソフトウェアを使用する権限の割り当て
- ソフトウェアを使用する権限の削除

これらの操作の導入には次のAsset Manager内のウィザードが使用されます。

- 1 これらのウィザードは**依頼**を作成します。
- 2 これらの依頼は、承認されて実行されると、**導入作業指示**を作成し、さらにインストールまたは除去の場合は**導入タスク**を作成します。
- 3 導入作業指示はHP Client Automationへジョブとして送られます。
- 4 HP Client Automationはこのジョブを実行します。
- 5 これらのジョブのステータスが、Asset Manager内の対応する作業指示に伝達されます。

ライセンス権限のチェック

これは統合のオプションの部分で、HP Client AutomationとAsset Manager間の**ライセンス権限のチェック**を実装します。

HP Client Automationは、インストールを実行する前に、Asset Managerデータベースにクエリを出して、使用されるサービスに関するメディアにリンクしたライセンスのステータスを判定します。

Asset Manager内の関連するメディアが十分な権限を持っている場合は、インストールは正常に進行します。そうでない場合、インストールは拒否されます。

用語

以降のセクションで、HP Client AutomationまたはAsset Managerの用語が状況に応じて使用されます。

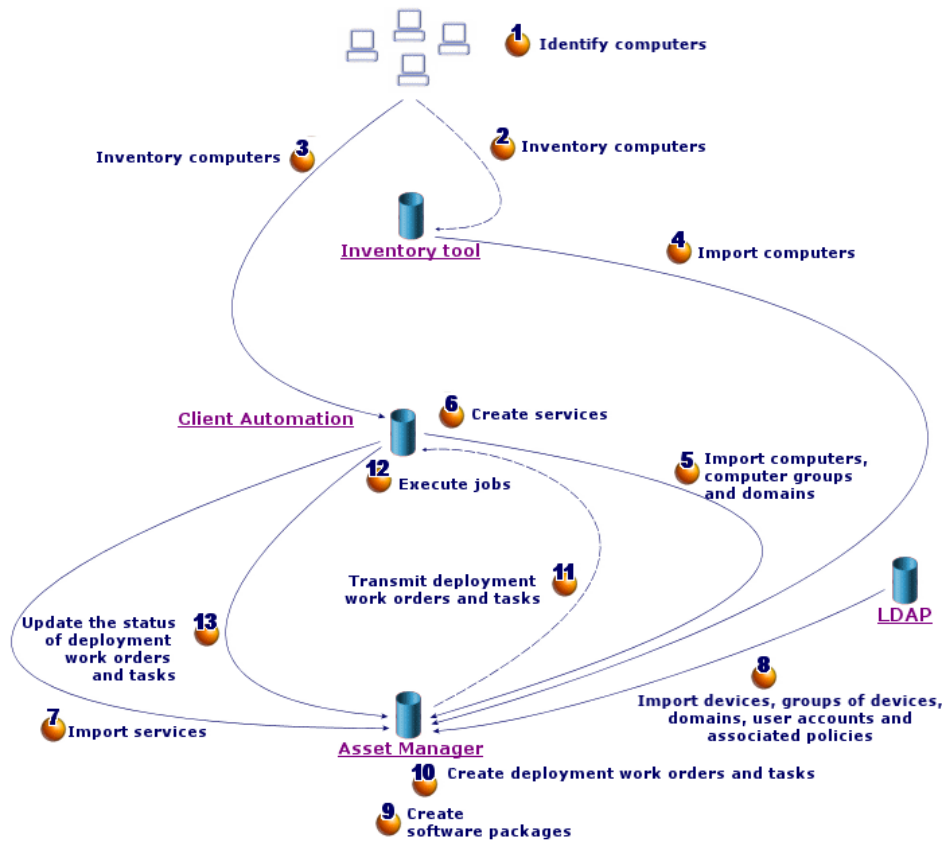
次の表に、2つの用語がどのように対抗するを示します。

HP Client Automationの要素	Asset Managerの要素
Device	コンピュータ
User account	ユーザアカウント
Group of devices	コンピュータグループ
Domain	ドメイン
Service	メディア
Policy	特定資格

導入プロセス

このプロセスを以下に示します。

図 1.1. 導入プロセスの手順



棚卸

▶図の手順1、2、3および4導入プロセスの手順 [献 22]。

このオプションのフェーズで、ネットワークハードウェアの棚卸を行います。

使用可能なスキャンツールはHP Device and Dependency Mappingか、またはHP Client AutomationのInventory Manager (IM) コンポーネントです。

このフェーズにより、Asset Managerデータベース内のハードウェア情報が完成します。

このフェーズの構成は次のとおりです。

- 1 スキャンツールによってすべてのネットワークハードウェアの棚卸を行います。通常、このツールは、収集したすべての情報を自身のデータベースに格納します。
- 2 棚卸したデータを、HP Connect-Itシナリオを使用して、Asset Manager本番データベースへインポートします。

参照データの複製

▶図の手順5、6、7および8導入プロセスの手順 [献 22]。

このフェーズでは、導入プロセスに必要なデータを作成します。

このフェーズは必須ですが、オプションの棚卸フェーズで任意の順序で実行できます。

この目的は、HP Client AutomationまたはLDAPディレクトリとAsset Manager間のデータを同期させて、これらが同じ参照先を持つことにあります。

このフェーズを実行するには、参照情報をHP Client Automationデータベースから収集し、HP Connect-Itシナリオを使用してAsset Manager本番データベースへインポートする必要があります。

この参照データは、概要 [献 19]のセクションに示されるデータです。

- Devices
- User accounts
- Groups of devices
- Domains
- Services
- Policies

HP Client Automationコンポーネントは次の各種の方法でデータにアクセスできます。

- **内部データベース**：HP Client Automationには、参照データが入っている独自のデータベースがあります。

管理エンティティ（デバイス、ユーザアカウント、デバイスのグループおよびドメイン）は、LDAPディレクトリの場合と同じ方法で構成されます。

Asset Managerデータベースにインポートされたデータが、デバイス、デバイスのグループ、ドメイン、ユーザアカウントおよびサービスを表します。

このインポートには、Webサービス経由でHP Client Automationに接続されるHP Connect-Itシナリオが使用されます。

Webサービスは内部データベースをクエリして、HP Connect-Itが要求するデータを返します。次に、HP Connect-Itは、そのデータをAsset Managerデータベースへ送信します。

- **外部LDAPディレクトリ**：HP Client AutomationはLDAPディレクトリに接続して、ディレクトリに記載されているクライアントの構成を管理します。上記の参照データは、内部データベース経由でのみアクセス可能なサービスを除いて、LDAPディレクトリに格納されます。

LDAPディレクトリが使用されるとき、そのディレクトリに格納されているデータの検索はHP Connect-Itシナリオを通じて行われます。このシナリオでは、ディレクトリのソースに直接接続し、Asset Managerの本番データベース内の関連情報を伝達します。

どちらの場合も、このフェーズは、Asset ManagerシステムとHP Client Automationシステムが同じ基準で通信できるようにする参照データの複製に主に基づいています。

データ	HP Client Automation 識別子	Asset Managerテーブルの識別子	Asset Manager識別子
コンピュータ	DistinguishName (DN)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	外部識別子 (ExtPfiId)
ユーザアカウント	DistinguishName (DN)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio) amEmplDept (部署と従業員)	外部識別子 (ExtPfiId) バーコード (BarCode)
コンピュータグループ	DistinguishName (DN)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	外部識別子 (ExtPfiId)
ドメイン	同期した各エントリのDN 例えば、DNがcn=client1,cn=demo,cn=hp,cn=comのコンピュータの場合、demo、hpおよびcomのドメインは、それぞれcn=demo,cn=hp,cn=com、cn=hp,cn=comおよびcn=comの識別子を使って、Asset Managerデータベース内に作成されます。	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	外部識別子 (ExtPfiId)
サービス	そのドメイン、クラスおよびインスタンスから構成されるパス (DCI)	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	コード (Code)

ソフトウェアのインストール／削除、ソフトウェアユーザ権限の割り当て／解除

図の手順9、10、11、12および13 導入プロセスの手順 [献 22].

Asset ManagerとHP Client Automation間で参照データが同期すると、Asset Managerから次の2つのタイプの操作が可能となります。

- ソフトウェアを1つまたは複数のコンピュータに追加または削除するように要求することができる。

- ソフトウェアを使用する権限を、コンピュータ、ユーザアカウント、コンピュータグループおよびドメインに割り当てることまたは割り当てを解除することができる。

この両方の操作を実行するにはウィザードを使用します。

ソフトウェアの追加および削除

- 1 このウィザードでは、メディアを選択することによりインストールするソフトウェアを特定できます。
- 2 ウィザードによりターゲットコンピュータを特定できます。
- 3 このウィザードは依頼を作成します。
- 4 この依頼は承認を必要とします（手動またはワークフロースキームに従って）。
- 5 依頼は手動で実行する必要があります（**[実行]** ボタン）。この実行により、導入作業指示と導入タスクが作成されます。
- 6 HP Connect-Itシナリオによって、導入作業指示がHP Client Automationへ伝達されます。
- 7 HP Client Automationがソフトウェアを追加または削除します。
- 8 HP Connect-Itシナリオによって、Asset Managerデータベースにある導入作業指示と導入タスクのステータスが更新されます。

注意:

このウィザードは、Asset Managerデータベース内に新しいソフトウェアインストールを作成しませんし、ソフトウェアインストールにコンピュータから削除されたことも記録しません。

この作業は、外部ツールが収集した棚卸情報をインポートするHP Connect-Itシナリオによって行われます。

ソフトウェア使用権限の付与と削除

- 1 このウィザードでは、メディアを選択することにより承認または拒否するソフトウェアを特定できます。
- 2 このウィザードは、ソフトウェアを使用する権限が付与または削除されるコンピュータ、ユーザアカウント、コンピュータグループおよびドメインを特定します。
- 3 このウィザードは特定資格を作成または削除します。
- 4 このウィザードは依頼を作成します。
- 5 依頼は承認を必要とします（手動またはワークフロースキームに従って）。
- 6 依頼は手動で実行する必要があります（**[実行]** ボタン）。この実行により、導入作業指示が作成されます（導入タスクは作成されません）。

- 7 HP Connect-Itシナリオによって、導入作業指示がHP Client Automationへ伝達されます。
- 8 HP Client Automationが権限（ポリシー）を割り当てまたは削除します。
- 9 HP Connect-Itシナリオによって、Asset Managerデータベースにある導入作業指示と導入タスクのステータスが更新されます。

ライセンスの検証

クライアントにインストールされるソフトウェアのライセンス権限をチェックするオプションモジュールを使用できます。

ソフトウェアをクライアントに物理的にインストールする前にこのモジュールをHP Client Automationシステムに導入すると、システムはAsset Manager Webサービスを呼び出して、十分な数のライセンス権限を利用可能かどうかをチェックします。

以下の複数のケースが考えられます。

- ライセンス権限数が十分であれば、インストールが開始され、導入プロセスが実行されます。
- ライセンス権限数が十分でない場合、インストールは中止され、導入タスクは実行されません。
- 何らかの理由で呼び出しに失敗した場合、ライセンスコンプライアンスのチェックは行われず、インストールは継続します。

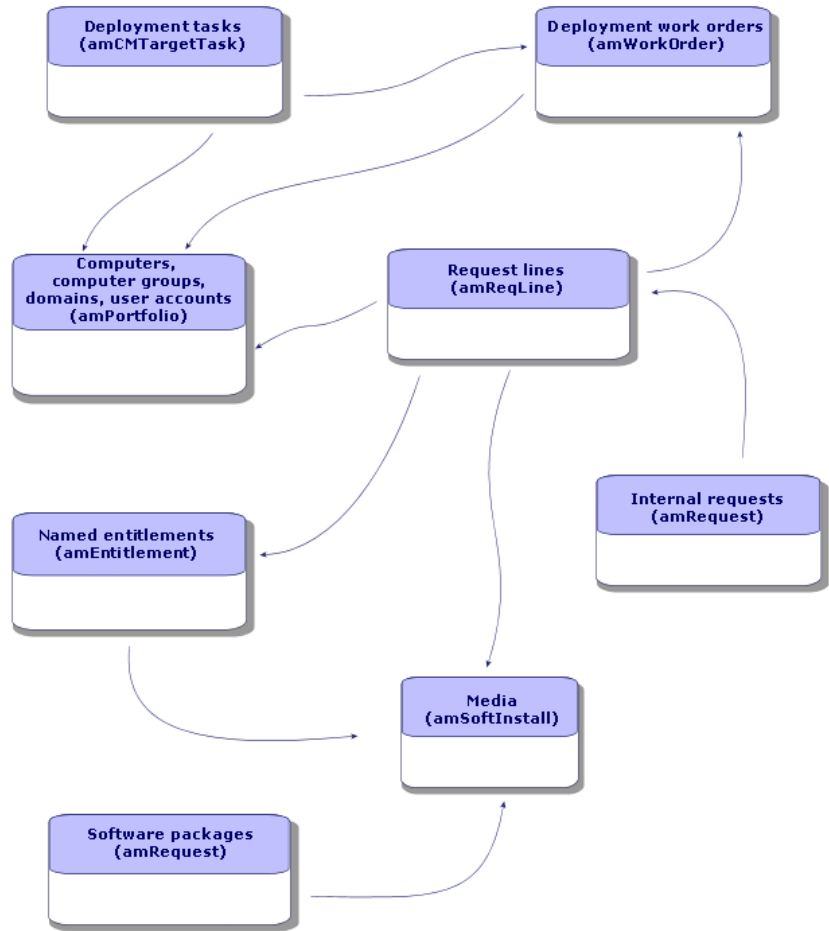
オブジェクト間の相互作用

下図に、導入プロセスで発生する各種データの相互関係と、これまでのセクションで紹介した各種データの相互関係を表示します。

注意:

この図は、Asset Managerデータベースの構造を正確には表していません。

図 1.2. 導入プロセス時のデータの相互作用



2 必要なコンポーネントの実装

概要 [献 19]の章に示したように、タスク導入プロセスの特定のフェーズは必須で、他のフェーズはオプションです。
実装する必要があるコンポーネントについても同じです。

必要なコンポーネント

Asset Manager

Asset Managerをインストールする

Asset Managerスイートの次のアプリケーションをインストールする必要があります。

アプリケーション	コンピュータ	目的
WindowsまたはWebクライアント	1つまたは複数のユーザーセッション	ソフトウェアパッケージと導入作業指示を作成し、依頼を承認します。

これらのコンポーネントのインストール方法については、▶ Asset Managerの『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

Asset Manager本番データベースの作成

Asset Manager本番データベースの作成が完了している必要があります。

本番データベースの作成方法については、▶ Asset Managerの『管理』ガイド、「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章を参照してください。

必要なライセンスの有効化

Asset Managerユーザライセンスは、次のモジュールへのアクセスを可能にする必要があります。

表 2.1. HP Client Automationとの統合 - 必要なユーザライセンス

ライセンス対象モジュール	アクセスの対象オブジェクト
HP CM統合	コンピュータ、コンピュータグループ、ユーザアカウント、ドメイン、メディア、ソフトウェアパッケージおよび導入作業指示
ポートフォリオ管理	社内依頼 ワークフロースキーム
ソフトウェア資産	【ソフトウェアの管理...】 (sysSamLauncher) ウィザード (ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/ソフトウェアの管理...】リンク)。

ユーザのライセンスを有効にする方法については、▶ Asset Manager 『管理』ガイドの「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章、「ライセンスの取得」のセクションと「ライセンスの変更」のセクションを参照してください。

Windowsクライアントでデータベースにアクセスするときに必要なモジュールの起動

以下のモジュールを起動する必要があります（[ファイル/モジュールの起動]メニュー）

- HP CM統合
- ポートフォリオ
- 管理
- ソフトウェア資産

注意:

これらの各モジュールはWebクライアント用にデフォルトで起動されます。

外部データをAsset Managerデータベースに挿入

このモジュールが必要とする定義済みのデータを挿入する必要があります。複数のデータタイプをAsset Manager本番データベースにインポートする必要があります（特に、アクションおよび特殊フィールド）。

データベース作成時の専門分野データのインポート

『管理』ガイドの「*Asset Manager*データベースの作成、変更、削除」、
「*Asset Manager Application Designer*を使ってデータベース構造を作成する」
の章に記述されている手順に従います。

[インポートするデータ] ページで、[構成管理 - 専門分野データ] オプション
を選択します。

既存のデータベースへの専門分野データのインポート

次の手順に従います。

- 1 *Asset Manager Application Designer*を実行します。
- 2 [ファイル/開く] メニューを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く (新規データベースの作成)] オプショ
ンを選択します。
- 4 「gbbase.xml」ファイルを選択します。このファイルは、*Asset Manager*の
インストールフォルダの「config」サブフォルダにあります。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します ([アクション/データベースの
作成] メニュー)。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します (ウィザードページを移動する
には、[次へ] または [前へ] ボタンを使用します)。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ :

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先にするデータベ ースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポート
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください。

[作成パラメータ] ページ :

フィールド	値
パスワード	管理者パスワードを入力します。
	<p>注意:</p> <p>Asset Managerデータベース管理者は、【部署名/姓】(Name) フィールドが「Admin」に設定されている【部署と従業員】(amEmplDept) テーブルのレコードです。</p> <p>データベース接続ログインは【ユーザ名】(UserLogin) フィールドに格納されます。管理名はAdminになります。</p> <p>パスワードは【パスワード】フィールドに保存されます (LoginPassword)。</p>

[インポートするデータ] ページ:

フィールド	値
使用可能データ	【構成管理 - 専門分野データ】 オプションを選択します
エラー発生時にインポートを中止	問題が発生したときにインポートを中止する場合、このオプションを選択しておきます。
ログファイル	エラーと警告を含む、すべてのインポート操作が記録されるファイルのフルネーム。

- 7 ウィザードを使用して定義されたオプションを実行します（【完了】ボタン）。

承認ワークフロースキームの設定

【ソフトウェアのインストールや削除の依頼を承認】 (OVCM_REQ_APPR) ワークフロースキームは、ソフトウェアのインストールや削除の依頼の承認プロセスを定義します。

デフォルトでは、このワークフロースキームは、各依頼を自動的に承認するように設定されます。

ユーザの要求と依頼の承認ポリシーに基づいて、このワークフロースキームはより包括的なプロセスを使用するように設定できます。

この場合、【開始】のアクティビティとそのイベントの変更は許されませんが、他のすべては再設定できます。

ワークフロースキームの設定方法については、▶ Asset Manager 『AccetCenterの高度な使い方』ガイドの「ワークフロー」の章を参照してください。

HP Client Automation

HP Client Automationのインストール

ソフトウェア配布および資格モジュールが正常に機能するには、以下のHP Client Automationコンポーネントをユーザの環境にインストールして設定する必要があります。

- 構成サーバ (RCS)
- 管理ポータル (RMP) とそのWebサービス (RMP WS)
- メッセージサーバ (RMS)

HP Client Automationコンポーネントのインストールと設定の方法については、
▶ HP Client Automationの『*Essentials* (基本要素)』、『*Configuration Server* (構成サーバ)』、『*Management Portal* (管理ポータル)』および『*Messaging Server* (メッセージングサーバ)』の各ガイドを参照してください。

HP Connect-It

HP Connect-Itのインストール

▶ HP Connect-It『*User's guide* (ユーザーズガイド)』の「*Installation* (インストール)」の章を参照してください。

HP Connect-Itシナリオの設定

[<HP Connect-It のインストールフォルダへの完全パス
>\scenario\hpcvcm\cm<HP Client Automationバージョン番号>ac51] にある以下のHP Connect-Itシナリオを設定する必要があります。

HP Connect-Itシナリオ	転送したデータ	ソースデータベース	ターゲットデータベース
ws_groups_devices.scn	デバイス、デバイスグループおよびそれらのドメインの識別情報	HP Client Automation	Asset Manager
ws_services.scn	サービス	HP Client Automation	Asset Manager
ws_jobs.scn	ソフトウェアを追加または削除のための導入作業指示	Asset Manager	HP Client Automation
ws_policies.scn	ソフトウェアの使用権限の割り当てまたは割り当ての解除のための導入作業指示	Asset Manager	HP Client Automation
ws_status.scn	ジョブのステータス	HP Client Automation	Asset Manager

HP Connect-Itシナリオ	転送したデータ	ソースデータベース	ターゲットデータベース
ldap_directory_service_allson	デバイス、デバイスグループ、ユーザアカウントとそのドメインおよび、これらのエンティティの既存のポリシーの識別情報	HP Client Automationによって使用されるNovell Directory Serviceなどの外部LDAPディレクトリ	Asset Manager
ldap_active_directory_allson	デバイス、デバイスグループ、ユーザアカウントとそのドメインおよび、これらのエンティティの既存のポリシーの識別情報	HP Client Automationによって使用されるMicrosoft Active Directoryなどの外部LDAPディレクトリ	Asset Manager

各シナリオについて複数の構成タイプを使用できる必要があります。

- コネクタ構成
- スケジュール構成
- マッピング構成

各シナリオで次の4つのコネクタが使用されます。

- Asset Manager
- Management Portal
- LDAP

コネクタの構成方法については、HP Connect-Itの『*Connectors*（コネクタ）』ガイドを参照してください。

各シナリオの実行を次のどちらかの方法でスケジュールすることができます。

- HP Connect-Itのスケジューラを定義する
- Asset Manager Automated Process Managerのスケジュールされたモジュールを定義する

前者については、▶ HP Connect-Itの『*User's guide*（ユーザズガイド）』の「*Implementing an integration scenario*（統合シナリオの実装）」の章を参照してください。

後者については、以下に示すスケジュールするシナリオごとの指示に従ってください。

- 1 Asset Manager Automated Process Managerを起動し、本番データベースに接続します。
- 2 [ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。
- 3 [新規作成] をクリックします。
- 4 名前、説明および次のコマンドを入力します。

```
"$connectit_exedir$/conitsvc.exe" -once -wpplog '$connectit_exedir$/.scenario/hpovcm/cm<HP Client Automationバージョン番号>ac51/XXX.scn' -dc:
```

```
AssetCenter.SERVER=$cnx$ -dc:AssetCenter.LOGIN=$login$ -dc:AssetCenter.TEXTPASSWORD=$pwd$
```

ここで、XXXはスケジュールするシナリオの名前を表します。

- 5 必要に応じて実行をスケジュールします。
- 6 **【新規作成】** をクリックします。

一部のシナリオでは、実行されるオペレーティングシステムに合わせてマッピングをカスタマイズする必要があります。

- 1 **ws_jobs.scn** : このシナリオのマッピングは外部ファイルで定義したカウンタを使用します。

このファイルは読み書き可能で、マッピングにはそのファイルにアクセスする正しいパスが必要です。

これを行うには、**【Create_Temporary_Group】** マッピングを開き、

【Additional script (補助スクリプト)】 タブで、**path_counter_file**変数に「**cmac_counter.txt**」ファイルへの完全パスが含まれていることを確認します (<HP Connect-It のインストールフォルダ>\scenario\hpovcm\cm<HP Client Automationバージョン番号>ac51\cpt\への完全パス)。

- 2 「**ldap_directory_service_all.scn**」と「**ldap_active_directory_all.scn**」のシナリオは、標準のLDAPディレクトリに基づいています。

シナリオによって読み出されたオブジェクトの一部のクラスがカスタマイズされていた場合、正しい情報がAsset Managerで複製されるようにマッピングの変更が必要な場合があります。

オプションのコンポーネント

スキャンツール

スキャンツールを本番環境にインストールして、ネットワーク要素を棚卸し、Asset Managerデータベースへの入力に使用される情報を読み出すことができます。

多くのスキャンツールを利用できます。以下のスキャンツールを推奨します。

- **HP Device and Dependency Mapping**
HP Device and Dependency Mappingのインストールと設定の方法については、▶HP Device and Dependency Mappingの『*Installation and Initial Setup* (インストールと初期設定)』ガイドを参照してください。
- **HP Client Automation Inventory Manager (IM)**
HP Client Automationのインストールと設定の方法については、▶HP Client Automationの『*Inventory Manager (棚卸マネージャ)*』ガイドを参照してください。

Asset Manager Automated Process Manager

Asset Manager Automated Process Managerモジュールの設定と起動

Asset Manager Automated Process Managerを使用してシナリオのスケジュールを管理する場合、新しいモジュールの作成と設定が必要です。

▶ この作成と設定には、[HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#)のセクションを参照してください。

Asset Manager Web Service

Asset Manager Web Serviceのインストール

このモジュールは特に以下の場合に必要です。

- Asset ManagerユーザがWebクライアント経由で本番データベースにアクセスできるようにする。
- ライセンス権限をチェックするために、コンプライアンスモジュールをHP Client Automationサーバに実装して、HP Client AutomationサーバがWebサービスを通してAsset Managerの本番データベースにクエリできるようにする。

Asset Manager Web Serviceのインストールと設定の方法については、▶ Asset Managerの『インストールとアップグレード』ガイドの「*Asset Manager Web*のインストール、設定、アンインストール」の章を参照してください。

Java J2SE v 5.0 JDK

Java J2SE v 5.0 JDKのインストール

コンプライアンスモジュールをHP Client Automationサーバに実装する場合は、Asset ManagerのWebサービスの呼び出しを処理するためにJava J2SE v 5.0 JDKをインストールする必要があります。

Java J2SE v 5.0 JDKのインストールの方法については、Java J2SE v 5.0 JDKについての▶ [Sun MicrosystemsのWebページ](#)

http://java.sun.com/javase/downloads/index_jdk5.jspを参照してください。



警告:

Java J2SE v 5.0 JDKインストールフォルダへのパスにはスペースを入れません。

Apache AXIS 1.2

Apache AXIS 1.2のインストール

コンプライアンスモジュールをHP Client Automationサーバに実装する場合は、Asset ManagerのWebサービスの呼び出しを処理するためにApache AXIS 1.2をインストールする必要があります。

AXIS 1.2のインストールの方法については、AXISに関する▶ ApacheのWebページ<http://ws.apache.org/axis/java/install.html>を参照してください。



警告:

Apache AXIS 1.2のインストールフォルダへのパスにはスペースを入れません。

Apache ANT 1.6.5

Apache ANT 1.6.5のインストール

ライセンス権限コンプライアンスモジュールを変更する場合は、プロジェクトとそのソースコードを処理するために、Apache ANT 1.6.5のインストールが必要です。

Apache ANT 1.6.5のインストールの方法については、ANTに関する▶ ApacheのWebページ<http://ant.apache.org/manual/index.html>を参照してください。



警告:

Apache ANT 1.6.5のインストールフォルダへのパスにはスペースを入れません。

ライセンス権限コンプライアンスモジュール

実装

ライセンス権限コンプライアンスモジュールを使用すると、ソフトウェアをクライアントにインストールする前に、HP Client AutomationはAsset ManagerのWebサービスを通してAsset Managerデータベースをクエリして、ソフトウェアライセンス権限をチェックできます。

このモジュールは、ソフトウェア配布および資格付与プロセスのオプションです。

このモジュールを実装するには、以下を実行します。

- 1 「<HP Connect-It のインストールフォルダ
>\datakit\hpovcm4x\cm\licence_check\ac_verify.tcl」 ファイルを次のフォルダコピーします。

<HP Client Automation RCS インストールフォルダへの完全パス>\lib.

 **注意:**

このファイルは、所定のアプリケーションのライセンス権限の数が十分あるかどうかを検証するAsset ManagerのWebサービスを呼び出し、その後に戻りコードを読み出すために使用されます。

このファイルを編集し、以下を指定します。

- Asset Managerユーザ名を使用して**LOGIN**変数を指定する。
- Asset Managerユーザに対応したパスワードを使用して**PASSWORD**変数を指定する。

 **警告:**

HP Client Automationを実装するには、パスワードをユーザに割り当てる必要があります。パスワードは空白であってはなりません。

- Asset ManagerのWebサービスがインストールされるホストの名前を使用して**HOST**変数を指定する。
- Webサービスが通信に使用するホストポートを使用して**PORT**変数を指定する。
- クエリするAsset ManagerのWebサービスのタグを使用して**WSTAG**変数を指定する。

 **注意:**

デフォルトでは、WSTAGは*Head*に等しいです。

 **注意:**

ライセンスのチェックに使用されるWebサービスのURLのシンタックスは次のとおりです。

```
http://<HOST>:<PORT>/AssetManagerWebService/services/<WSTAG>/Portfolio
```

- AXIS 1.2ライブラリへのパスで**path_axis**変数（通常、これは<AXISインストールフォルダへの完全パス>\lib）を指定する（[Apache AXIS 1.2 \[献 37\]](#)のセクションを参照してください）。

- 2 「<HP Connect-It のインストールフォルダ>\datakit\hpovcm4x\cm\licence_check\ac_verify.tcl」ファイルの内容を次のフォルダに解凍します。

<HP Client Automation RCS インストールフォルダへの完全パス>\bin

- 3 次のコマンドラインを使用して、そのフォルダにある「setup.tcl」ファイルを実行します。

```
cd <HP Client Automation RCS インストールフォルダへの完全パス>\bin
```

```
nvdkit setup.tcl -host <host> -user <user> -pass <password>
```

 **注意:**

このファイルは、「ac_verify.tcl」ファイルを実行するHP Client Automationを設定します。

- 4 RMS、RCSおよびRIS（Radia Integration ServerのRMPコンポーネント）コンポーネントに対するサービスを再起動します。

必要条件

ライセンス権限のチェックが所定のメディアに対して正確に機能するには、以下の条件を満たす必要があります。

- メディアがソフトウェアパッケージの一部であること。
- ソフトウェアパッケージに、ソフトウェアインストールモデルにリンクされた依頼明細が少なくとも1つ含まれていること。
- ソフトウェアのインストールモデルが少なくとも1つのソフトウェアアカウントに含まれていること（**カウント制限（インストール）**（SoftInstQuery）リンク）。

カスタマイズ

 **注意:**

このセクションで説明する操作はオプションです。

ライセンス権限コンプライアンスモジュールをカスタマイズするための必要条件
Apache ANTをインストールする必要があります（▶ [Asset Manager Web Service \[献 36\]](#)）。

ライセンス権限コンプライアンスモジュールのカスタマイズ

このセクションでは、ライセンス権限コンプライアンスモジュールをユーザの環境に適応させる方法を説明します。

この適応操作は、ソースファイルの編集と、Asset Manager Web Serviceを通してAsset ManagerデータベースをクエリするHP Client Automationによって使用されるコンポーネントの再ビルドです。

ソースファイルを編集およびコンパイルするには：

- 1 「<HP Connect-It のインストールフォルダ
>\datakit\hpovcm4x\cm\licence_check\ac_verify.tcl\ac_verify_source.zip」
ファイルの内容をC:\Workなどの作業フォルダに解凍します。
- 2 「setPath.bat」 ファイルを編集して、以下のパラメータを変更します。
 - **JAVA_HOME** : Java J2SE v 5.0 JDKインストールフォルダへの完全パス
([Java J2SE v 5.0 JDK](#) [献 36]のセクションを参照してください)
 - **ANT_HOME** : Apache ANTインストールフォルダへの完全パス
([Asset Manager Web Service](#) [献 36]のセクションを参照してください)
 - **STUB_HOME** : 作成したところの作業フォルダへの完全パス
 - **AXIS_HOME** : AXISインストールフォルダへの完全パス ([Apache AXIS 1.2](#) [献 37]のセクションを参照してください)
- 3 「ant.properties」 ファイルを編集して、以下のパラメータを変更します。
 - **ws.host** : Asset Manager Web Serviceのホスト
 - **ws.port** : Asset Manager Web Serviceへアクセスするためのポート
 - **ws.user** : Asset Manager Web ServiceがAsset Managerデータベースとの接続に使用するログイン
 - **ws.password** : Asset Manager Web ServiceがAsset Managerデータベースへの接続に使用するログインに使われるパスワード
- 4 「build.xml」 ファイルを編集して、**lib**変数を指定します (AXIS libフォルダ)。例えば、

```
<property name="lib" value="C:\<AXISインストールフォルダへの完全パス>\lib"/>
```

- 5 DOSコマンドプロンプトを開きます。
- 6 作業フォルダ (例えば、C:\Work) に切り替えます。
- 7 SetPath.batを実行します。
これにより環境変数が更新されます。
- 8 runAnt.cmdを実行します。
これにより以下が実行されます。
 - 「classes」フォルダと「stubSrc」のフォルダが存在し、そのフォルダにファイルが含まれている場合、それらのフォルダの内容を空にします。
 - Asset Manager Web Serviceに対応するクラスと、srcフォルダ内のソースコードに対応するクラスを生成します。



注意:

この操作は完了までにある程度の時間がかかります (30分以上) 。

- 9 「createJar.bat」 を実行します。
これにより、classesフォルダ内のすべてのクラスを含んだ「ac_verify_RunTime.jar」ファイルが作成されます。

「ac_verify_RunTime.jar」ファイルには、HP Client Automationが十分なライセンス権限数の存在のチェックに使用するac_verify.classクラスが含まれます。

- 10 「ac_verify_RunTime.jar」ファイルを<HP Client Automation installation folder>\ConfigurationServer\binにコピーします。

ライセンス権限コンプライアンスモジュールの操作

ソフトウェアのインストールの前に、HP Client Automationは、src\portfolioフォルダにある「ac_verify.java」ファイルを使用して、Asset Manager Web Service経由でAsset Managerをクエリして、十分な数のライセンス権限が存在するかどうかをチェックします。

以下に、使用する引数のリストを示します。

```
<code> -u <login> -w <password> -h <host> -p <port> -t <tag>
```

ここで、

- *code* : インストールするソフトウェアライセンスを記述するポートフォリオ品目の **[Code]** (Code) フィールド
- *login* : Asset Manager Web ServiceがAsset Managerデータベースとの接続に使用するログイン
- *password* : Asset Manager Web ServiceがAsset Managerデータベースとの接続に使用するログインに使われるパスワード
- *host* : Asset Manager Web Serviceのホスト
- *port* : Asset Manager Web Serviceへアクセスするためのポート
- *tag* : 使用するAsset Manager Web Serviceのステータスを識別するコード

クエリ中にエラーが発生した場合 (例えば、ポートフォリオ品目が見つからない場合、ログインまたはパスワードが不正の場合など)、値4がエラーメッセージとともに返されます。

クエリー中にエラーが発生しなければ、値0が返されます。また、ライセンス権限の数が十分でない場合、*No available license for: <Portfolio item code>* (<ポートフォリオ品目のコード>のライセンスがありません) も返されます。

十分な権限が存在するかどうかを確認するには、Webサービスはメディアに対応するポートフォリオ品目を検索し、**[サービスに十分なライセンス権限がありません]** (OVCMServiceHasEnoughLicense) 特殊フィールドの値をテストします。

特殊フィールドはAsset Managerによって評価されます。次の条件が満たされた場合、この値は「Yes」です。

- メディアはソフトウェアパッケージの一部です。
- ソフトウェアパッケージには、ソフトウェアインストールモデルにリンクされた依頼明細が含まれています。
- ソフトウェアのインストールモデルの1つがソフトウェアアカウントに含まれます (カウント制限 (インストール) (SoftInstQuery) リンク)。

- これらのカウンタの1つの【権限カウント】（dLicUseRights）フィールドには、【インストール／使用カウント】（dSoftInstallCount）フィールドの値よりも大きい値が入っています。

3 参照情報の作成と更新

導入作業指示の作成と実行が可能になるには、その前に、以下の参照情報が **Asset Manager** の本番データベースに存在する必要があります。

- コンピュータ [献 43]
- ユーザアカウント [献 45]
- コンピュータグループ [献 46]
- ドメイン [献 47]
- メディア [献 48]
- ソフトウェアパッケージ [献 49]

この章では、参照情報の入力方法について説明します。

コンピュータ

コンピュータを参照する理由とその参照先

ソフトウェアがターゲットコンピュータに正しく配布されるようにするには、コンピュータを同じ方法で次の中で識別する必要があります。

- **Asset Manager** データベース。このデータベースにより、**Asset Manager** 内に作成される導入タスクがコンピュータを参照できます。
- **HP Client Automation** データベース。このデータベースにより、**HP Client Automation** へエクスポートされる作業指示がコンピュータを参照できます。

- **コンピュータ自身**。これにより、HP Client Automationがジョブを実行するときにコンピュータを見つけることができます。

コンピュータをインポートする方法

次の2つが可能です。

- **Asset Managerデータベースには、統合により、スキャンツールで入力済みです。**
この場合、ネットワークコンピュータはすでに認識され、大量のデータがすでに入力されています。
- **これらのコンピュータは棚卸されていないので、データベースにはこの情報は存在しません。**

コンピュータはHP Connect-Itシナリオを通してインポート（作成または更新）されます（「ws_groups_devices.scn」、「ldap_active_directory_all.scn」および「ldap_directory_service_all.scn」）。次に、2つのタイプのユースケースを示す照合更新の方法が続きます。

- 1 **1番目の照合更新：コンピュータのMACアドレスを使用して行われます。**
コンピュータデータベースにすでに存在し、そのMACアドレスが（棚卸により）入力済みの場合、このシナリオは情報を完成し、コンピュータのDNを追加します。
- 2 **2番目の照合更新：MACアドレスが未知の場合、このシナリオはコンピュータの完全名を使用して試します。**
このキーを使用してコンピュータが見つかった場合、そのDNが情報リストに追加されます。
- 3 **3番目の照合更新：最初の2つの照合更新が失敗した場合、このシナリオはコンピュータのDNを使用して試します。**これは、コンピュータがMACアドレスなしで本番データベースに入力されたことを意味している可能性があります。
すべての照合更新が失敗すると、複製されるDNを含む必要な情報を使ってコンピュータが作成されます（参照データの章の**参照データの複製** [献23] のセクションを参照してください）。

Asset Managerデータベース内のコンピュータを識別する方法

コンピュータは、**【外部識別子】**（ExtPfiId）フィールド値が空でなく、**【機器のタイプ】**（seComputerType）フィールドが**コンピュータ**に等しい属性にリンクしている、**【ポートフォリオ品目】**（amPortfolio）テーブルのレコードです。

ユーザアカウント

ユーザアカウントを参照する理由とその参照先

LDAPディレクトリはユーザアカウントのエンティティを定義します。

次に、**HP Client Automation**はこれらのユーザアカウントのポリシーを定義して、ソフトウェアへのアクセスを承認または拒否できます。

ユーザアカウントをソフトウェア配布および資格付与のプロセスで管理できるようにするには、次のところで同じ方法でユーザアカウントを識別する必要があります。

- **Asset Managerデータベース**このデータベースにより、Asset Manager内に作成されたスケジュールされたタスクがユーザアカウントを参照できます。
- **HP Client Automationデータベース**。このデータベースにより、HP Client Automationへエクスポートされる作業指示がコンピュータを参照できます。
- **ユーザアカウント自身**。これにより、HP Client Automationがジョブを実行するときにユーザアカウントを見つけることができます。

ユーザアカウントをインポートする方法

ユーザアカウントは、DNベースの照合更新方法を使用する**HP Connect-It**シナリオ（「`ldap_active_directory_all.scn`」と「`ldap_directory_service_all.scn`」）によってインポートされます。オブジェクトがまだ存在しなければ、これらのシナリオは次の2つのタイプの情報を作成します。

- 1 ユーザアカウントに対応するポートフォリオ品目。ポートフォリオ品目はモデルにリンクし、それ自体が【ユーザアカウント】（`bUserAccount`）オプションがチェックされている属性にリンク
- 2 関連するユーザ

識別子フィールドにDNを持つ2つのオブジェクトがあります（参考データの章の**参照データの複製 [献 23]**のセクションを参照してください）。

Asset Managerデータベース内のユーザアカウントを識別する方法

【外部識別子】（`ExtPfiId`）フィールド値が空でない【ポートフォリオ品目】（`amPortfolio`）テーブルのレコードで、【ユーザアカウント】（`bUserAccount`）フィールドが選択されてユーザにリンクしている属性にリンクします。

コンピュータグループ

コンピュータグループを参照する理由とその参照先

コンピュータグループは、コンピュータまたはコンピュータグループとなるエンティティセットを定義します。

エンティティを共通の特性でグループ化できます。グループ化によって、ソフトウェアの配布および資格の付与が最適化されます。

コンピュータグループを導入プロセスで管理できるようにするには、次のところで同じ方法でコンピュータグループを識別する必要があります。

- **Asset Managerデータベース** このデータベースにより、Asset Manager内に作成される導入タスクがコンピュータを参照できます。
- **HP Client Automationデータベース**。このデータベースにより、HP Client Automationへエクスポートされる作業指示がコンピュータを参照できます。

コンピュータグループをインポートする方法

コンピュータグループは、DNベースの照合更新方法を使用するHP Connect-Itシナリオ（「ws_groups_devices.scn」、「ldap_active_directory_all.scn」および「ldap_directory_service_all.scn」）によってインポートされます。オブジェクトがまだ存在しなければ、これらのシナリオは、**[機器のタイプ]**

（seComputerType）フィールドが**コンピュータグループ**に等しい属性にリンクしたコンピュータを作成します。

コンピュータグループのメンバーは複製されるとコンピュータグループに追加され、**[依存性タイプ]**（CRType）リンクが**グループ**に属すに一致するクライアント-リソース関係を確立します。

ポートフォリオ品目モデルはその由来によって異なります。

- **LDAPグループ**。LDAPディレクトリからの場合
 - **構成管理のグループ**。内部HP Client Automationデータベースからの場合
- 両方のモデルは、**[機器のタイプ]**（seComputerType）フィールドが**コンピュータグループ**に等しいという属性を備えています。

▶ 参照データの複製 [献 23].

Asset Managerデータベース内のコンピュータを識別する方法

コンピュータグループは、**[外部識別子]**（ExtPfiId）フィールド値が空でなく、**[機器のタイプ]**（seComputerType）フィールドが**コンピュータグループ**に等しいような属性にリンクしている**[ポートフォリオ品目]**（amPortfolio）テーブルのレコードです。

ドメイン

ドメインを参照する理由とその参照先

ドメインは、共通の名前空間を共有するコンピュータ、ユーザアカウントおよびコンピュータグループであるエンティティのセット（エントリとも呼ばれる）をグループ化します。

ドメインは階層を定義します。

ドメインは、LDAPディレクトリと、ドメインへのポリシーの割り当てを可能にするHP Client Automation内部データベースに存在します。

ドメインは、次のところから同じ方法で参照される必要があります。

- **Asset Managerデータベース** このデータベースにより、Asset Manager内に作成されたスケジュールされるタスクがコンピュータを参照できます。
- **HP Client Automationデータベース**。このデータベースにより、HP Client Automationへエクスポートされる作業指示がコンピュータを参照できます。

ドメインをインポートする方法

ドメインは、各エントリが複製されるときにHP Connect-Itシナリオを通してインポートされます（「ws_groups_devices.scn」、

「ldap_active_directory_all.scn」および「ldap_directory_service_all.scn」）。

ドメインは次の項目によって表現されます。

- 資産に関連付けられたポートフォリオ品目
- ポートフォリオ品目にリンクしたコンピュータテーブル内のエントリ

ポートフォリオ品目モデルは【**機器のタイプ**】（seComputerType）フィールドが**ドメイン**に等しい属性にリンクしています。

これらの2つの関連するオブジェクトの識別子は、次の方法でDNから再構成されます。

例えば、DNが`cn=client1,cn=demo,cn=hp,cn=com`のコンピュータが複製されると、`demo`、`hp`および`com`のドメインは、【**外部識別子**】（ExtPfiId）フィールドの`cn=demo,cn=hp,cn=com`、`cn=hp,cn=com`および`cn=com`の値を使って作成されます。

▶ 参照データの複製 [献 23].

Asset Managerデータベース内のドメインを識別する方法

ドメインは、【**外部識別子**】（ExtPfiId）フィールド値が空でなく、【**機器のタイプ**】（seComputerType）フィールドが**ドメイン**に等しい属性にリンクしている【**ポートフォリオ品目**】（amPortfolio）テーブルのレコードです。

メディア

メディアを参照する理由とその参照先

ジョブの作成と実行を可能にするには、その前に、ジョブにサービスを割り当てできるようにする必要があります。

サービスはHP Client Automation内で全部定義されます。

ジョブを作業指示の導入として、またサービスをメディアとしてAsset Managerで作成されるとき、メディアをAsset Managerデータベース内で選択できるようにする必要があります。

また、サービスに関する情報の一部を、HP Client AutomationデータベースからAsset Managerデータベース内のメディアにエクスポートする必要があります。

サービスをインポートする方法

サービスは、照合更新の方法がDCIに基づくHP Connect-Itシナリオ (ws_services.scn) を通してインポートされます。

サービスは、複製されたサービスタイプに対応するモデルにリンクしたソフトウェアインストールとしてインポートされます。モデル自体は、【メディア】 (bSetUpMedia) オプションが選択されている属性にリンクしています。

この情報はHP Client Automationには存在しないので、メディアがインストール可能なソフトウェアアプリケーションの説明を追加して、そのアプリケーションに関連付けられているライセンスを管理できるようにする必要があります。

各メディアをソフトウェアパッケージにリンクできます（この章の次の箇所を参照してください）。

▶ 参照データの複製 [献 23].

Asset Managerデータベース内の構成管理メディアを識別する方法

構成管理メディアは、【構成管理メディア】 (bCMService) チェックボックスが選択されているモデルにリンクし、【メディア】 (bSetUpMedia) チェックボックスが選択されている属性にもリンクしているポートフォリオ品目です。

ソフトウェアパッケージ

ソフトウェアパッケージを参照する理由とその参照先

ソフトウェアパッケージはAsset Manager内で全部定義されます。

このソフトウェアパッケージにより、同じソフトウェアエンティティを参照するメディアをグループ化できます。

例えば、*MS Office*ソフトウェアパッケージには、*MS Word*と*MS Excel*のメディアなどが含まれます。

ソフトウェアパッケージの作成方法

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 ソフトウェアパッケージを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/DML/ソフトウェアパッケージ] リンク）。
- 4 新規ソフトウェアパッケージを作成します（ [新規作成] ボタン）。

注意:

これにより、レコードが**依頼**（amRequest）テーブルに追加されます。

[ステータス]（seStatus）フィールドが [標準依頼] に設定され、[ソフトウェアパッケージ]（bSoftPackage）チェックボックスが選択されています。これにより、標準依頼がソフトウェアパッケージに対応していることを判定します。

- 5 ソフトウェアパッケージがDMLの一部である場合は、 [承認] フィールドで **DML**を選択します。
この基準が、導入タスクを作成するウィザードによって取り入れられます。この基準を使用して、ソフトウェアパッケージを承認されたソフトウェアパッケージと区別します。
- 6 [明細] タブで、調達サイクルに取り入れる依頼明細を追加します。
- 7 必要なすべてのフィールドに入力し、ソフトウェアパッケージを保存します。

ヒント:

この段階で、 [メディア] タブに入力しないでください。

▶ [ソフトウェアパッケージにまだリンクされていないメディアをリンクする方法 \[献 50\]](#)

ソフトウェアパッケージにまだリンクされていないメディアをリンクする方法

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [ソフトウェアパッケージにメディアをリンク...] ウィザード (sysOVCMReconcilingDSLRefMedia) を起動します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/ソフトウェアパッケージにメディアをリンク...] リンク)。
- 4 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、[完了] をクリックします。

注意:

メディアのリストが、導入タスクを作成するウィザードによって取り入れられます。これにより、所定のメディアが所属するソフトウェアパッケージを検索できます。

4 ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除

Asset Managerを使用して、ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアの使用権限の割り当てまたは割り当ての操作を行います。

このために、Asset Managerウィザードによって依頼を作成します。

これらの依頼は、承認されて実行されると、導入作業指示を作成し、さらにソフトウェアの使用権限の割り当てまたはその削除場合は導入タスクを作成します。

これらの作業指示と作業タスクは、HP Connect-Itシナリオによって、HP Client Automationへジョブとして送られます。

HP Client Automationはこのジョブを実行します。

ジョブの転送と実行の結果は、HP Connect-Itシナリオを通して、Asset Managerへ自動的に送られます。これにより、導入作業指示と導入タスクが更新されます。

ソフトウェアの追加または削除

ソフトウェアの追加または削除の方法は複数あります。

このセクションではそのための各種の方法を説明します。

場所でソフトウェアを追加/削除

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。

- 2 本番データベースに接続します。
- 3 **【ソフトウェアの管理...】** (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/ソフトウェアの管理...】** リンク)。
- 4 **【ソフトウェアの管理...】** ページで、**【ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除】** を選択します。
- 5 **【次へ】** をクリックします。
- 6 **【ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除】** ページで、**【場所でソフトウェアを追加/削除】** をクリックします。
これにより、**【場所でソフトウェアを追加/削除】** (sysOVCMLocations) ウィザードが起動されます。
- 7 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、**【完了】** をクリックします。
- 8 ウィザードを終了します (**【OK】** ボタン)。
- 9 このウィザードは、与えられた情報を使って社内依頼を作成します。
導入作業指示が作成されるのは、依頼が承認されている場合 (**【ステータス】** (seStatus) フィールドが**承認済**に設定されている場合) のみです。
▶ **承認ワークフロースキームの設定 [献 32]**.
- 1 依頼の詳細を表示します (ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/社内依頼】** リンク)。
- 2 **【実行】** をクリックします。
- 3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。
- 4 このウィザードは、対応する導入作業指示と関連する導入タスクを作成します。
- 5 ウィザードを閉じます (**【OK】** ボタン)。
依頼が承認されると、依頼の明細を実行する必要があります。
ナビゲーションバーにある **【ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/導入作業指示】** メニューを通して、導入作業指示を表示できます。

ユーザでソフトウェアを追加/削除

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 **【ソフトウェアの管理...】** (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの **【ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/ソフトウェアの管理...】** リンク)。

- 4 [ソフトウェアの管理...] ページで、[ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] を選択します。
 - 5 [次へ] をクリックします。
 - 6 [ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] ページで、[ユーザでソフトウェアを追加/削除] をクリックします。
これにより、[ユーザでソフトウェアを追加/削除...] (sysOVCMLocations) ウィザードが起動されます。
 - 7 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、[完了] をクリックします。
 - 8 ウィザードを終了します ([OK] ボタン)。
 - 9 このウィザードは、与えられた情報を使って社内依頼を作成します。
導入作業指示が作成されるのは、依頼が承認されている場合 ([ステータス] (seStatus) フィールドが承認済に設定されている場合) のみです。
▶ 承認ワークフロースキームの設定 [献 32].
依頼が承認されると、依頼の明細を実行する必要があります。
- 1 依頼の詳細を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/ 拡張ポートフォリオ/社内依頼] リンク)。
 - 2 [実行] をクリックします。
 - 3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。
 - 4 このウィザードは、対応する導入作業指示と関連する導入タスクを作成します。
 - 5 ウィザードを閉じます ([OK] ボタン)。
- ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP 構成管理統合/導入作業指示] メニューを通して、導入作業指示を表示できます。

コンピュータでソフトウェアを追加/削除

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [ソフトウェアの管理...] (sysSamLauncher) ウィザードを起動します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/ソフトウェアの管理...] リンク)。
- 4 [ソフトウェアの管理...] ページで、[ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] を選択します。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 [ユーザ権限の定義とソフトウェアを追加/削除] ページで、[コンピュータでソフトウェアを追加/削除] をクリックします。

これにより、**[コンピュータでソフトウェアを追加/削除...]**

(**sysOVCMGeneric**) ウィザードが起動されます。

7 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、**[完了]** をクリックします。

8 ウィザードを終了します (**[OK]** ボタン)。

9 このウィザードは、与えられた情報を使って社内依頼を作成します。

導入作業指示が作成されるのは、依頼が承認されている場合 (**[ステータス]**
(**seStatus**) フィールドが**承認済**に設定されている場合) のみです。

▶ **承認ワークフロースキームの設定 [献 32].**

依頼が承認されると、依頼の明細を実行する必要があります。

1 依頼の詳細を表示します (ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理/ 拡張ポートフォリオ/社内依頼]** リンク)。

2 Windowsクライアントの場合: **[実行]** をクリックします。

Webクライアントの場合: **[状況依存アクション]** ドロップダウンリストから **[実行]** を選択します。

3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。

4 このウィザードは、対応する導入作業指示と関連する導入タスクを作成します。

5 ウィザードを閉じます (**[OK]** ボタン)。

ナビゲーションバーにある **[ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP 構成管理統合/導入作業指示]** メニューを通して、導入作業指示を表示できます。

コンピュータからソフトウェアを削除

1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。

2 本番データベースに接続します。

3 コンピュータを表示します (ナビゲーションバーにある **[ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ]** メニュー)。

4 コンピュータを選択します。

5 Windowsクライアントの場合: **[削除]** ボタンをクリックします。

Webクライアントの場合: **[状況依存アクション]** ドロップダウンリストから **[削除]** を選択します。

これにより、**[コンピュータからソフトウェアを削除する依頼]**

(**ysOVCMRemoveSoftFromCpu**) ウィザードが起動されます。

6 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、**[完了]** をクリックします。

7 ウィザードを終了します (**[OK]** ボタン)。

8 このウィザードは、与えられた情報を使って社内依頼を作成します。

導入作業指示が作成されるのは、依頼が承認されている場合（[ステータス]（seStatus）フィールドが承認済に設定されている場合）のみです。

▶ 承認ワークフロースキームの設定 [献 32].

依頼が承認されると、依頼の明細を実行する必要があります。

- 1 依頼の詳細を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/社内依頼]リンク）。
- 2 Windowsクライアントの場合：[実行]をクリックします。
Webクライアントの場合：[状況依存アクション]ドロップダウンリストから[実行]を選択します。
- 3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。
- 4 このウィザードは、対応する導入作業指示と関連する導入タスクを作成します。
- 5 ウィザードを閉じます（[OK] ボタン）。

ナビゲーションバーにある[ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/導入作業指示]メニューを通して、導入作業指示を表示できます。

ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除

ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [特定資格を作成/削除...]（sysOVCMEntitlement）ウィザードを起動します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/特定資格を作成/削除...]リンク）。
- 4 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、[完了]をクリックします。
- 5 ウィザードを終了します（[OK] ボタン）。
- 6 このウィザードは、与えられた情報を使用して、ターゲットエンティティごとの社内依頼と特定資格を作成します。

各依頼の[目的]（ReqPurpose）フィールドには、次のメディアの特定資格を作成：'XXX'またはメディアの特定資格を削除：'XXX'の値が入ります。

作成される各特定資格の[名前]（Name）フィールドには、メディア'XXX'の値が入ります。

依頼が承認されると（[ステータス]（seStatus）フィールドが承認済みに設定されると）、導入作業指示を作成してHP Client Automationへ送信するために、依頼の明細を実行する必要があります。

- 1 依頼の詳細を表示します（ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/社内依頼]リンク）。
- 2 [実行]をクリックします。
- 3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。
- 4 このウィザードは対応する作業指示を作成します。
- 5 ウィザードを閉じます（[OK]ボタン）。

ヒント:

Windowsクライアントでの使いやすさを向上させるには、仮想階層を作成して、自動化されている特定資格画面をカスタマイズします。

例えば、資格をメディア別にグループ化できます。

- 1 画面を開き、[メディア]フィールドをクリックします。
- 2 ショートカットメニューから[このフィールドでグループ分け]を選択します。
リストはメディアでソートされ、各メディアが階層の1レベルを定義します。

特定資格にはナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/特定資格]リンク経由で、関連する作業指示には[ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/導入作業指示]リンク経由でアクセスできます。

注意:

ソフトウェアアプリケーションを使用する権限が割り当てられると、選択したターゲットコンピュータとグループに対してメディアの導入することができます。

これを行うには、このウィザードの最後のページにある[ソフトウェアも追加]または[ソフトウェアも削除]をチェックします。

この場合、この章で説明したものと同一プロセスに従う導入タスクが作成されます。

ソフトウェアを使用する権限の削除

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。

- 3 特定資格を表示します（ナビゲーションバーにある **[ポートフォリオ管理／IT／構成管理／特定資格]** リンク）。
- 4 削除する特定資格を選択します。
- 5 Windowsクライアントの場合：**[依頼の削除]** をクリックします。
Webクライアントの場合：**[状況依存アクション]** ドロップダウンリストから **[依頼の削除]** を選択します。
これにより、**[特定資格を削除...]** (sysOVCMContextRemoveEntitlement) ウィザードが起動されます。
- 6 ウィザードの各ページに関する情報を入力し、**[完了]** をクリックします。
- 7 ウィザードを終了します（**[OK]** ボタン）。
- 8 このウィザードは、与えられた情報を使用して、特定資格を削除する社内依頼を作成して表示します。

依頼の **[目的]** (ReqPurpose) フィールドの値は**メディアの特定資格を削除**です。

依頼が承認されると（**[ステータス]** (seStatus) フィールドが**承認済み**に設定されると）、導入タスクを作成してユーザ権限の削除依頼をHP Client Automationへ送信するために、依頼の明細を実行する必要があります。

- 1 依頼の詳細を表示します（ナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理／拡張ポートフォリオ／社内依頼]** リンク）。
- 2 **[実行]** をクリックします。
- 3 実行する明細を選択してからこのウィザードを終了します。
- 4 このウィザードは対応する作業指示を作成します。
- 5 ウィザードを閉じます（**[OK]** ボタン）。

ヒント:

使いやすさを向上させるには、仮想階層を作成して特定資格画面をカスタマイズします。

例えば、資格をメディア別にグループ化できます。

- 1 画面を開き、**[メディア]** フィールドをクリックします。
- 2 ショートカットメニューから **[このフィールドでグループ分け]** を選択します。
リストはメディアでソートされ、各メディアが階層の1レベルを定義します。

特定資格にはナビゲーションバーの **[ポートフォリオ管理／IT／導入とリリース／HP構成管理統合／特定資格]** リンク経由で、関連する作業指示には **[ポートフォリオ管理／IT／導入とリリース／HP構成管理統合／導入作業指示]** リンク経由でアクセスできます。

ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示をHP Client Automationへ転送

ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示は、作業指示の詳細の [全般] タブの [転送ステータス] (amESDTask) フィールドの値が未転送の場合に、[ws_jobs.scn] のHP Connect-ItのシナリオによってHP Client Automationへ転送されます。

導入作業指示は、「ws_jobs.scn」のHP Connect-Itのシナリオによって転送されます。

このシナリオの実行の自動化については、▶ [HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#) を参照してください。

これをチェックするには、Asset Manager内で作成した導入作業指示の1つがHP Client Automationデータベースに存在することを確認します。

ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示のHP Client Automationへの転送をチェック

HP Client Automationへ転送される、ソフトウェアのインストールまたは削除の作業指示の転送ステータスは、HP Connect-Itの「ws_jobs.scn」シナリオによって更新されます。

転送ステータスを自動的に更新

このシナリオの実行の自動化については、▶ [HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#) を参照してください。

転送ステータスのチェック

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 導入作業指示を表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / IT / 導入とリリース / HP構成管理統合 / 導入作業指示] リンク)。
- 4 チェックする導入作業指示を選択します。
- 5 [**Job status state**] (JobStatusState) フィールドを調べます。

ジョブの実行をHP Client Automationでチェック

ジョブの実行のステータスを更新

HP Client Automationが実行するジョブの実行のステータスは、HP Connect-Itの「ws_status.scn」のシナリオによって更新されます。

このシナリオの実行の自動化については、▶ [HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#) を参照してください。

導入作業指示の実行のステータスのチェック

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 導入作業指示を表示します（ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / IT / 導入とリリース / HP構成管理統合 / 導入作業指示] リンク）。
- 4 チェックする導入作業指示を選択します。
- 5 **[Job status state]** (JobStatusState) フィールドを調べます。
- 6 導入タスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理 / IT / 導入とリリース / HP構成管理統合 / 導入タスク] リンク）。
- 7 チェックする導入タスクを選択します。
- 8 **[実行結果]** (JobStatusCode) フィールドと **[処理ステータス]** (JobStatusState) フィールドを調べます。

ソフトウェアの使用権限を付与または削除する作業指示のHP Client Automationへの転送と実行

ソフトウェア使用権限の付与または削除の作業指示は、作業指示の詳細の **[転送ステータス]** (amESDTask) フィールドの値が**未転送**の場合に、
「ws_policies.scn」のHP Connect-ItのシナリオによってHP Client Automationへ転送されます。

導入作業指示は、「ws_policies.scn」のHP Connect-ItのシナリオによってHP Client Automationへ転送されます。

このシナリオの実行の自動化については、▶ [HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#) を参照してください。

これをチェックするには、転送した導入作業指示の1つによってHP Client Automationデータベース内にポリシーが作成されたことを確認します。

ソフトウェアの使用権限を付与または削除する作業指示のHP Client Automationへの転送と実行のチェック

HP Client Automationへ転送されるソフトウェアを使用する権限を付与または削除するための作業指示の転送と実行のステータスは、HP Connect-Itの「ws_policies.scn」シナリオによって更新されます。

転送ステータスを自動的に更新

このシナリオの実行の自動化については、▶[HP Connect-Itシナリオの設定 \[献 33\]](#)を参照してください。

転送ステータスのチェック

- 1 Asset ManagerのWindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 導入作業指示を表示します（ナビゲーションバーの【[ポートフォリオ管理 / IT / 導入とリリース / HP構成管理統合 / 導入作業指示](#)】リンク）。
- 4 チェックする導入作業指示を選択します。
- 5 【**Job status state**】（JobStatusState）フィールドを調べます。

II LANDesk Management Suiteとの統合

5 概要

ソフトウェア配布プロセスの内容






コンピュータのスキャンには以下のツールを使用することができます。

- HP Device and Dependency Mapping
- LANDesk

ソフトウェアの配布プロセスは、コンピュータのスキャンに使用するツールによって多少異なります。

コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用する場合のプロセス

ソフトウェア配布プロセスは次のステップから構成されます。

ステップ	使用するコンポーネント	コンポーネントの使用頻度
<p> 1</p> <p>可能なターゲットコンピュータを識別する</p>	<p>各コンピュータにインストールされたLANDesk Management Suiteエージェント：このエージェントは各コンピュータに固有の識別子を割り当てます。</p> <p>この識別子は、LANDesk Management Suite、Asset Manager、HP Device and Dependency Mappingのデータベースでのコンピュータの識別に同様に使用されます。</p> <p>注意：</p> <p>Asset Managerでは、コンピュータの識別子を格納するフィールドは [ソフトウェア配布識別子] (SWDID) フィールドです。</p>	<p>新しいコンピュータごとに1回</p>
<p> 2</p> <p>LANDesk Management Suite データベースでコンピュータを宣言する</p>	<p>LANDesk Management Suite：このアプリケーションが、LANDesk Management Suiteエージェントが導入されているコンピュータをスキャンします。</p> <p>コンピュータでスケジュールされたタスクを実行するには、LANDesk Management Suiteでコンピュータをスキャンする必要があります。</p>	<p>新しいコンピュータごとに1回、自動的に</p>
<p> 3</p> <p>HP Device and Dependency Mapping によるコンピュータのスキャン</p>	<p>HP Device and Dependency Mapping：このアプリケーションがコンピュータをスキャンします。</p> <p>スキャンされたコンピュータは、Asset Managerにインポートして、スケジュールされたタスクの作成時に選択することができます。</p>	<p>コンピュータの最新リストを維持するため定期的かつ可能な限り自動的に</p>
<p> 4</p> <p>Asset Manager データベースでコンピュータをインポートする</p>	<p>HP Connect-It：「edac.scn」シナリオ</p> <p>このインポートを使用して新しいコンピュータを追加し、それらを更新します。HP Device and Dependency Mapping データベースに存在しなくなったコンピュータをHP Device and Dependency Mapping データベースから削除することはできません。</p>	<p>コンピュータの最新リストを維持するため定期的かつ自動的に</p>
<p> 5</p> <p>配布パッケージおよびスクリプトを作成する</p>	<p>LANDesk Management Suite</p>	<p>新しい配布パッケージまたはスクリプトごとに1回</p>

LANDesk Management Suite







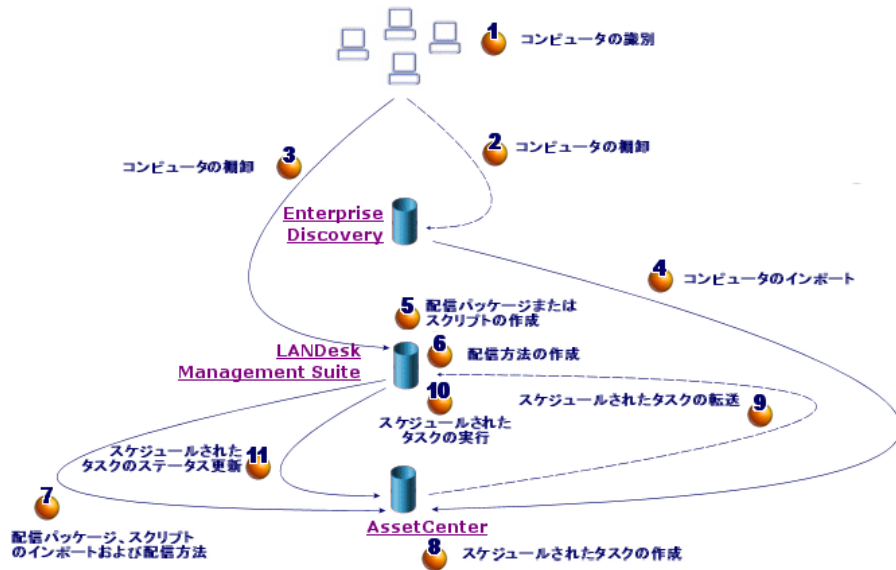
ステップ	使用するコンポーネント	コンポーネントの使用 頻度
 配信方法を作成する		新しい配信方法ごとに1回
 配信パッケージとスクリプト、および配信方法をAsset Managerデータベースにインポートする	HP Connect-It : 「LDUpdateRepository.scn」シナリオ このインポートを使用して新しい配布パッケージとスクリプトを追加し、それらを更新します。ただし、LANDesk Management Suiteデータベースに存在しなくなった配布パッケージをAsset Managerデータベースから削除することはできません。	配布パッケージとスクリプト、および配信方法の最新リストを維持するため、定期的かつ自動的に
 スケジュールされたタスクを作成する	Asset Manager : スケジュールされたタスクが次のステップによってAsset Managerで作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータにパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDGeneric) ■ 場所にパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDLocation) ■ ユーザにパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDServices) 	配布タスクをプランニングする必要があるときに1回
 新しいスケジュールされたタスクをLANDesk Management Suiteに転送する	HP Connect-It : 「DStarTasks.scn」シナリオ このインポートを使用して新しいスケジュールされたタスクを追加します。タスクの更新や削除には使用されません。	定期的かつ自動的に
 スケジュールされたタスクを実行する	LANDesk Management Suite	LANDesk Management Suite で定義されたオプションどおり
 Asset Managerのスケジュールされたタスクのステータスを更新する	HP Connect-It : HP Connect-It「LDUpdateTask.scn」シナリオ このインポートを使用して既存のスケジュールされたタスクを更新します。タスクの作成や削除には使用されません。	定期的かつ自動的に

図 5.1. コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用する場合のソフトウェア配布プロセス



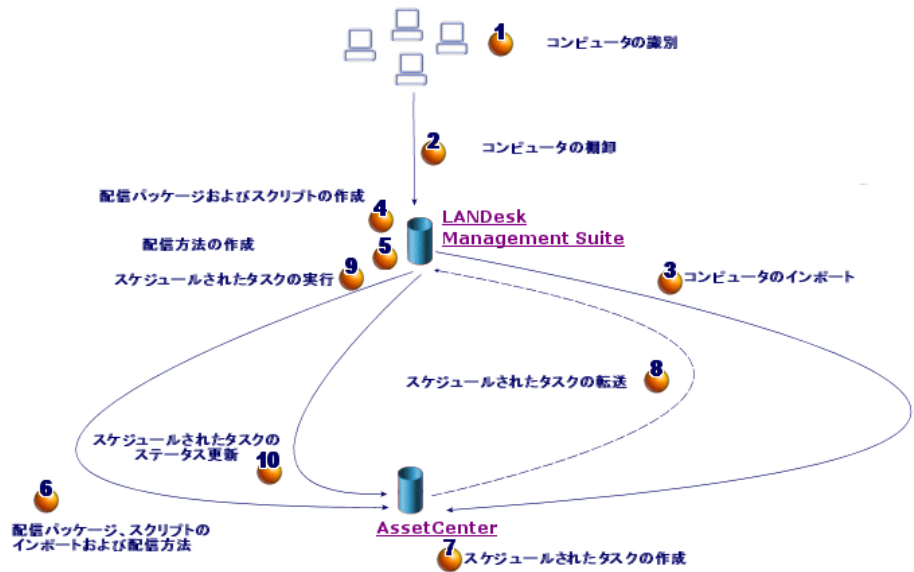
コンピュータのスキャンにLANDesk Management Suiteを使用する場合のプロセス

ソフトウェア配布プロセスは次のステップから構成されます。

ステップ	使用するコンポーネント	コンポーネントの使用頻度
<p>1</p> <p>可能なターゲットコンピュータを識別する</p>	<p>各コンピュータにインストールされたLANDesk Management Suiteエージェント：このエージェントは各コンピュータに固有の識別子を割り当てます。</p> <p>この識別子は、LANDesk Management SuiteとAsset Managerのデータベースでのコンピュータの識別に同様に使用されます。</p> <p>注意:</p> <p>Asset Managerでは、コンピュータの識別子を格納するフィールドは [ソフトウェア配布識別子] (SWDID) フィールドです。</p>	<p>新しいコンピュータごとに1回</p>
<p>2</p> <p>LANDesk Management Suiteデータベースでコンピュータを宣言する</p>	<p>LANDesk Management Suite：このアプリケーションが、LANDesk Management Suiteエージェントが導入されているコンピュータをスキャンします。</p> <p>コンピュータでスケジュールされたタスクを実行するには、LANDesk Management Suiteでコンピュータをスキャンする必要があります。</p>	<p>新しいコンピュータごとに1回、自動的に</p>
<p>3</p> <p>Asset Managerデータベースでコンピュータをインポートする</p>	<p>HP Connect-ItシナリオHP Connect-It「<i>ldskac.scn</i>」</p> <p>このインポートを使用して新しいコンピュータを追加し、それらを更新します。LANDesk Management Suiteデータベースに存在しなくなったコンピュータをAsset Managerデータベースから削除することはできません。</p>	<p>コンピュータの最新リストを維持するため定期的かつ自動的に</p>
<p>4</p> <p>配布パッケージおよびスクリプトを作成する</p>	<p>LANDesk Management Suite</p>	<p>新しい配布パッケージまたはスクリプトごとに1回</p>
<p>5</p> <p>配信方法を作成する</p>	<p>LANDesk Management Suite</p>	<p>新しい配信方法ごとに1回</p> <p>配布パッケージとスクリプト、および配信方法の最新リストを維持するため、定期的かつ自動的に</p>

ステップ	使用するコンポーネント	コンポーネントの使用頻度
<p>6</p> <p>配信パッケージとスクリプト、および配信方法をAsset Managerデータベースにインポートする</p>	<p>HP Connect-It : HP Connect-Itシナリオ 「LDUpdateRepository.scn」</p> <p>このインポートを使用して新しい配布パッケージとスクリプトを追加し、それらを更新します。ただし、LANDesk Management Suiteデータベースに存在しなくなった配布パッケージをAsset Managerデータベースから削除することはできません。</p>	
<p>7</p> <p>スケジュールされたタスクを作成する</p>	<p>Asset Manager : スケジュールされたタスクが次のアクションによってAsset Managerで作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータにパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDGeneric) ■ 場所にパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDLocation) ■ ユーザにパッケージ/スクリプトを配布... (sysESDServices) 	<p>配布タスクをプランニングする必要があるときに1回</p>
<p>8</p> <p>新しいスケジュールされたタスクをLANDesk Management Suiteに転送する</p>	<p>HP Connect-It : HP Connect-Itの「LDStarTasks.scn」シナリオ</p> <p>このインポートを使用して新しいスケジュールされたタスクを追加します。タスクの更新や削除には使用されません。</p>	<p>定期的かつ自動的に</p>
<p>9</p> <p>スケジュールされたタスクを実行する</p>	<p>LANDesk Management Suite</p>	<p>LANDesk Management Suiteで定義されたオプションどおり</p>
<p>10</p> <p>Asset Managerのスケジュールされたタスクのステータスを更新する</p>	<p>HP Connect-It : HP Connect-Itの「LDUpdateTask.scn」シナリオ</p> <p>このインポートを使用して既存のスケジュールされたタスクを更新します。タスクの作成や削除には使用されません。</p>	<p>定期的かつ自動的に</p>

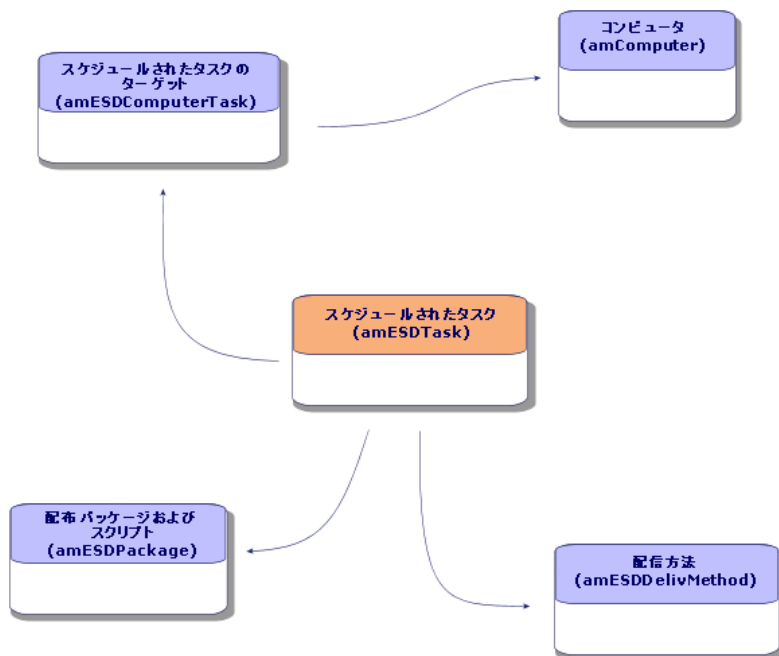
図 5.2. コンピュータのスキャンにLANDesk Management Suiteを使用する場合のソフトウェア配布プロセス



ソフトウェア配布で使用されるメインテーブル

ソフトウェア配布で使用されるテーブルの数は限定されています。

図 5.3. ソフトウェア配布で使用されるテーブル



6 必要なコンポーネントの実装

Asset Manager

Asset Managerをインストールする

Asset Managerスイートから次のアプリケーションをインストールする必要があります。

アプリケーション	コンピュータ	目的
Asset Manager	1台の管理者ワークステーション	本番データベースの作成
Asset Manager Automated Process Manager	1台のモニタサーバ	Asset ManagerとLANDesk Management Suite間のデータ変換や、HP Device and Dependency Mapping棚卸データのインポート（コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用する場合）のためのHP Connect-Itシナリオの自動実行
WindowsまたはWebクライアント	1台以上のユーザステーション	スケジュールされたタスクの作成とそのステータスのモニタ

これらのコンポーネントのインストール方法については、▶ Asset Managerの『インストールとアップグレード』ガイドを参照してください。

Asset Manager本番データベースを作成する

Asset Manager本番データベースを作成する必要があります。

これらのコンポーネントのインストール方法については、▶ Asset Manager の『管理』ガイドの「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章を参照してください。

必要なライセンスを有効にする

Asset Managerユーザライセンスで以下のモジュールへのアクセスが許可されている必要があります。

表 6.1. ソフトウェア配布モジュール - 必要なユーザのライセンス

ライセンスで購入する必要があるモジュール	目的
LANDesk統合	ソフトウェア配布
ポートフォリオ	コンピュータの作成

ユーザのライセンスを有効にする方法については、▶ Asset Managerの『管理』の「Asset Managerデータベースの作成、変更、削除」の章、「ライセンスファイルを取得する」および「ライセンスを変更する」のセクションを参照してください。

Windowsクライアントでデータベースにアクセスするときに必要なモジュールの起動

次のモジュールを有効にする必要があります（[ファイル/モジュールの起動]メニュー）。

- LANDesk統合
- ポートフォリオ
- 管理

注意:

Webクライアントの場合、これらのモジュールはデフォルトで有効になっています。

LANDesk Management Suite

LANDesk Management Suiteをインストールする

- ▶ LANDesk Management Suiteの『*Installation and deployment*』ガイド

HP Device and Dependency Mapping

HP Device and Dependency Mappingをインストールする



注意:

コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用している場合、このインストールは不要です。

LANDesk Management Suite棚卸モジュールを使用することもできます。

- ▶ HP Device and Dependency Mapping『*Installation and Initial Setup*』ガイド

HP Connect-It

HP Connect-Itをインストールする

- ▶ HP Connect-It『*ユーザガイド*』ガイドの「インストール」の章

HP Connect-Itシナリオを設定する

次のHP Connect-Itシナリオを設定する必要があります。

- 「edac.scn」（コンピュータのスキャンにHP Device and Dependency Mappingを使用する場合）
または：
■ 「ldskac.scn」（コンピュータのスキャンにLANDesk Management Suiteを使用する場合）
- LDStarTasks.scn
- LDUpdateTask.scn
- LDUpdateRepository.scn

HP Connect-Itシナリオの設定方法については、▶ *Asset Manager*の『管理』ガイドの「*Asset Manager Automated Process Manager*」の章、「*Asset Manager Automated Process Manager*でモニタするモジュールを設定する」のセクションを参照してください。

Asset Manager Automated Process Manager

必要なAsset Manager Automated Process Managerモジュールの設定と起動

設定するAsset Manager Automated Process Managerモジュールのリストの検索については、▶ このガイドのAsset Manager Automated Process Managerモジュール [献 111]の章を参照してください。

Asset Manager Automated Process Managerモジュールの設定方法については、▶ 『管理』ガイドの「*Asset Manager Automated Process Manager*」の章、「*Asset Manager Automated Process Manager*でモニタするモジュールを設定する」のセクションを参照してください。

7 参照情報の作成と更新

スケジュールされたタスクを作成して実行するには、次の参照情報を入力する必要があります。

- ターゲットコンピュータ
- 配布パッケージおよびスクリプト
- 配信方法

この章では、参照情報の入力方法について説明します。

ターゲットコンピュータ

ターゲットコンピュータの参照が必要な理由および場所

ターゲットコンピュータへのソフトウェア配布が正しく機能するためには、コンピュータが以下で同様に識別される必要があります。

- **Asset Managerデータベース**。コンピュータがAsset Managerで作成したスケジュールされたタスクによって参照されるようにするため
- **LANDesk Management Suiteデータベース**。コンピュータが、LANDesk Management Suiteにエクスポートされたスケジュールされたタスクによって参照されるようにするため
- **コンピュータ自体**。スケジュールされたタスクがLANDesk Management Suiteによって実行されるときに、コンピュータが見つかるようにするため

ターゲットコンピュータを参照するために必要な手順

ターゲットコンピュータを正しく参照するには、次の順番で作業を進めます。

- 1 LANDesk Management Suiteエージェントを各ターゲットコンピュータに導入します。

コンピュータに固有の識別子を作成します。

識別子はコンピュータのハードドライブに格納されます。

コンピュータは、LANDesk Management Suiteデータベースで自動的に参照されます。

▶ LANDesk Management Suiteのマニュアル『*Installation and deployment*』の「*Deploying main agents to peripherals*」の章

- 2 HP Device and Dependency Mappingによるコンピュータのスキャンを起動します。



注意:

これは、LANDesk Management SuiteのほかにHP Device and Dependency Mappingを使用してコンピュータをスキャンする場合にのみ必要です。

▶ HP Device and Dependency Mappingマニュアル

- 3 Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了したこと、*Enterprise Discovery* 棚卸結果を使用してデータベースを更新モジュール (EdAc) によってHP Connect-Itの「edac.scn」シナリオ (HP Device and Dependency Mappingを使用してコンピュータの棚卸をする場合)、または「ldskac.scn」シナリオ (LANDesk Management Suiteを使用してコンピュータの棚卸をする場合) がトリガされることを確認します。

これをチェックするには、HP Device and Dependency MappingまたはLANDesk Management Suiteによってスキャンされた新しいコンピュータがAsset Managerデータベースにリストされていることを確認します。

配布パッケージおよびスクリプト

配布パッケージおよびスクリプトの参照が必要な理由と場所

スケジュールされたタスクを作成し、実行するには、タスクに配布パッケージまたはスクリプトを割り当てる必要があります。

配布パッケージおよびスクリプトは、全体がLANDesk Management Suiteで作成されます。

ただし、スケジュールされたタスクはAsset Managerで作成されるので、配布パッケージおよびスクリプトをAsset Managerデータベースから選択できるようにする必要があります。

配布パッケージおよびスクリプトに関する情報の一部をLANDesk Management SuiteデータベースからAsset Managerデータベースにエクスポートする必要があります。

配布パッケージおよびスクリプトの参照方法

配布パッケージおよびスクリプトを正しく参照するには、次の順番で作業を進めます。

- 1 LANDesk Management Suiteデータベースに配布パッケージおよびスクリプトを作成します。

▶ LANDesk Management Suiteの『Users guide』

- 2 Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了していること、ソフトウェアパッケージと配信方法データベースの更新モジュール (SWDRepo) によってHP Connect-Itの「LDUpdateRepository.scn」シナリオがトリガされていることを確認します。

これをチェックするには、LANDesk Management Suiteで作成した新しい配布パッケージまたはスクリプトがAsset Managerデータベースにリストされていることを確認します。

配信方法

配信方法の参照が必要な理由と場所

スケジュールされたタスクを作成し、実行するには、タスクに配信方法を割り当てる必要があります。

配信方法は、全体がLANDesk Management Suiteで作成されます。

ただし、スケジュールされたタスクはAsset Managerで作成されるので、配信方法をAsset Managerデータベースから選択できるようにする必要があります。

配信方法に関する情報の一部をLANDesk Management Suite データベースからAsset Managerデータベースにエクスポートする必要があります。

配信方法の参照方法

配信方法を正しく参照するには、次の順番で作業を進めます。

- 1 LANDesk Management Suiteデータベースで配信方法を作成します。

▶ LANDesk Management Suiteの『Users guide』

- 2 Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了していること、ソフトウェアパッケージと配信方法データベースの更新モジュール (SWDRepo)

によってHP Connect-Itの「LDUpdateRepository.scn」シナリオがトリガされていることを確認します。

これをチェックするには、LANDesk Management Suiteで作成した新しい配信方法がAsset Managerデータベースにリストされていることを確認します。

8 ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布

スケジュールされたタスクはAsset Managerで作成されます。

このタスクは、Asset Manager内で作成されると、HP Connect-ItシナリオによってLANDesk Management Suiteへ自動的に転送されます。

LANDesk Management Suiteがスケジュールされたタスクを実行します。

転送結果と実行結果が、HP Connect-ItシナリオによってAsset Managerに自動的に送信されます。

Asset Managerでのスケジュールされたタスクの作成

スケジュールされたタスクを作成する方法は複数あります。
以下にさまざまな作成方法を示します。

スケジュールされたタスクをウィザードなしで作成する

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 スケジュールされたタスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/スケジュールされたタスク] リンク）。
- 4 新しいスケジュールされたタスクを作成します（[新規作成] ボタン）。

- 5 スケジュールされたタスクを入力し、保存します。

選択した場所にあるコンピュータのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用)

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [場所にパッケージ/スクリプトを配布...] ウィザード (sysESDLocation) を起動します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/場所にパッケージ/スクリプトを配布...] リンク)。
- 4 ウィザードの各ページに情報を入力し、終了をクリックします。

所定ユーザのコンピュータのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用)

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [ユーザにパッケージ/スクリプトを配布...] ウィザード (sysESDServices) を起動します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/ユーザにパッケージ/スクリプトを配布...] リンク)。
- 4 ウィザードの各ページに情報を入力し、終了をクリックします。

コンピュータセットのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用)

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 [コンピュータにパッケージ/スクリプトを配布...] ウィザード (sysESDGeneric) を起動します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/コンピュータにパッケージ/スクリプトを配布...] リンク)。
- 4 ウィザードの各ページに情報を入力し、終了をクリックします。

新しいスケジュールされたタスクのLANDesk Management Suiteへの転送

タスクの詳細で、【転送ステータス】（seRequest）フィールドの値が「未転送」の場合、HP Connect-Itシナリオ「LDStarTasks.scn」によってタスクがLANDesk Management Suiteにのみ転送されます。

次の2つの場合、フィールドがこの値になります。

- ウィザードを使ってスケジュールされたタスクを作成し、ウィザードを終了する前に【すぐに転送】オプションを選択した場合
- それ以外の場合で、スケジュールされたタスクの詳細を表示し、【転送】ボタンをクリックした場合

スケジュールされたタスクが、HP Connect-Itシナリオ「LDStarTasks.scn」によってLANDesk Management Suiteに転送されます。

このタスクを自動化するには、Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了していること、ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの作成モジュール（SWDCTask）によってHP Connect-Itの「LDStarTasks.scn」シナリオがトリガされていることを確認します。

検証するには、Asset Managerで作成され、【転送ステータス】（seRequest）フィールドが「未転送」に設定されているスケジュールされたタスクがLANDesk Management Suiteデータベースに存在することを確認します。

スケジュールされたタスクのLANDesk Management Suiteへの転送のチェック

LANDesk Management Suiteに転送されるスケジュールされたタスクの転送ステータスは、Asset Managerデータベースの、スケジュールされたタスクの詳細の【転送ステータス】（seRequest）フィールドに存在します。

LANDesk Management Suiteに転送されるスケジュールされたタスクの転送ステータスは、HP Connect-Itシナリオ「LDStarTasks.scn」によって更新されません。

転送ステータスを自動的に更新する

このタスクを自動化するには、Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了していること、ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの作成モジュール（SWDCTask）によってHP Connect-Itの「LDStarTasks.scn」シナリオがトリガされていることを確認します。

検証するには、LANDesk Management Suiteに問題なく転送された、まだ実行されていないスケジュールされたタスクが、データベースに正しいステータスを保有することを確認します。

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 スケジュールされたタスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/スケジュールされたタスク] リンク）。
- 4 チェックするスケジュールされたタスクを選択します。
- 5 [転送ステータス]（seRequest）フィールドを表示します。値は「転送済」である必要があります。

転送ステータスをチェックする

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 スケジュールされたタスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/スケジュールされたタスク] リンク）。
- 4 チェックするスケジュールされたタスクを選択します。
- 5 [転送ステータス]（seRequest）フィールドを表示します。

LANDesk Management Suiteによるスケジュールされたタスクの実行のチェック

LANDesk Management Suiteに転送されたスケジュールされたタスクの転送ステータスは、Asset Managerデータベースに存在します。

- スケジュールされたタスクの詳細の、[転送ステータス]（seRequest）フィールド
- スケジュールされたタスクの詳細の、[タスクのステータス]（ESDStatus）フィールド
- スケジュールされたタスクの詳細の、[ステータス]（Status）フィールド

LANDesk Management Suiteによって実行されたスケジュールされたタスクの実行ステータスは、HP Connect-Itシナリオ「LDUpdateTasks.scn」によって更新されます。

スケジュールされたタスクの実行ステータスを自動的に更新する

このタスクを自動化するには、Asset Manager Automated Process Managerの起動が完了していること、ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの結果の更新モジュール（SWDUTask）によってHP Connect-Itの「LDUpdateTasks.scn」シナリオがトリガされていることを確認します。

検証するには、LANDesk Management Suiteによって問題なく実行されたスケジュールされたタスクが、Asset Managerデータベースに正しいステータスを保有することを確認します。

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 スケジュールされたタスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/スケジュールされたタスク] リンク）。
- 4 チェックするスケジュールされたタスクを選択します。
- 5 [転送ステータス]（seRequest）フィールドを表示します。値は「実行済」である必要があります。

スケジュールされたタスクの実行ステータスをチェックする

- 1 Asset Manager WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 本番データベースに接続します。
- 3 スケジュールされたタスクを表示します（ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合/スケジュールされたタスク] リンク）。
- 4 チェックするスケジュールされたタスクを選択します。
- 5 [転送ステータス]（seRequest）フィールドを表示します。
- 6 [タスクのステータス]（ESDStatus）フィールドを表示します。
- 7 [ターゲット] タブを選択します。
- 8 スケジュールされたタスクの別のターゲットの [ステータス]（Status）フィールドを表示します。

III その他のソフトウェア配布ツールとの統合

9 LANDesk Management Suite統合の別のソフトウェア配布ツールへの適用

プロセスの適用

ソフトウェア配布プロセスの内容 [献 63]のセクションで説明したプロセスを調べます。

次のタスクを実行するためプロセスで使用するツールを決定します。

- コンピュータの識別とスキャン
- ソフトウェアの配布

これらの質問への答えに基づいて新しいプロセスを定義します。

HP Connect-Itシナリオの適用

新しいプロセスで使用される異なるツール間の情報の転送 (▶ プロセスの適用 [献 87]) は、HP Connect-Itによって処理されます。

HP Connect-Itは、HP Connect-It [献 73]のセクションで説明したシナリオを使用します。

新しいプロセスで使用するツールに適用するシナリオを作成するときには、既存のシナリオを参照してください。

これらのシナリオでは、HP Device and Dependency MappingコネクタとLANDeskコネクタを、新しいプロセスに使用するツールに適用するコネクタと置き換えます。

これらのコネクタは、転送する情報に応じて、Asset Managerデータベースにある以下のテーブルをポイントする必要があります。

- **コンピュータ (amComputer)** : スキャンされたコンピュータを格納
- **スケジュールされたタスク (amESDTask)** : 実行がソフトウェア配布ツールによって処理される、スケジュールされたタスクを格納
- **配布パッケージおよびスクリプト (amESDPackage)** : コンピュータに配布するための配布パッケージおよびスクリプトを格納
- **配信方法 (amESDDelivMethod)** : パッケージまたはスクリプトを配布するためソフトウェア配布ツールによって配信方法が必要となる場合、配信方法を格納

これらのテーブルすべてに対して、選択した照合更新キーを使用することができます。

Asset Manager Automated Process Managerモジュールの適合

Asset Manager Automated Process Managerは、HP Connect-Itシナリオを自動的に実行してAsset ManagerとLANDesk Management Suite間でデータを交換するように、またHP Device and Dependency Mapping棚卸データをインポートするように設定されています (HP Device and Dependency Mappingをコンピュータの棚卸に使用する場合)。

ソフトウェアの配布プロセスで使用されているHP Connect-Itシナリオを変更した場合は、Asset Manager Automated Process Managerモジュールが正しく適合していることをチェックします。

IV 付録

A 用語集

用語集は、ソフトウェアの配布および構成管理ツールを使ったAsset Managerの統合で使用される主要な用語を定義します。

HP Client Automationの統合に特有の専門用語

導入作業指示（ジョブ）

導入作業指示は、HP Client Automationによって実行が処理される操作を記述します。

- ソフトウェアのインストール
- ソフトウェアの削除
- ソフトウェアを使用する権限の割り当て
- ソフトウェアを使用する権限の削除

導入作業指示はAsset Managerデータベース内にウィザードによって作成され、HP Connect-ItのシナリオによってHP Client Automationへ転送され、HP Connect-ItシナリオによってAsset Managerデータベース内で更新されます。

このオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

【作業指示】（amWorkOrder）

導入タスク (ジョブ)

導入タスクは、導入ターゲットを指定することにより導入作業指示の記述を完成します。

導入タスクは Asset Manager データベース内にウィザードによって作成され、HP Connect-It シナリオによって Asset Manager データベース内で更新されます。

このオブジェクトを記述する Asset Manager データベースのテーブル

導入タスク (amCMTargetTask)

ユーザアカウント (User account)

ユーザアカウントは HP Client Automation 内か、または HP Client Automation によって使用される LDAP ツリーで定義され、HP Connect-It のシナリオによって Asset Manager データベースへインポートされます。

特定資格によって、ソフトウェアを使用する権限を LDAP アカウントに付与することができます。

このオブジェクトを記述する Asset Manager データベースのテーブル

ポートフォリオ品目 (amPortfolio)

Asset Manager データベース内のこれらのオブジェクトの特性

【外部識別子】 (ExtPfiId) フィールド値が空でない [ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルのレコードで、このレコードは、【ユーザアカウント】 (bUserAccount) フィールドが選択されてユーザにリンクしている属性にリンクしています。

ドメイン (Domain)

LDAP DNS ドメイン。

コンピュータ、ユーザアカウントおよびコンピュータグループは、分岐がドメインを表すツリー構造として階層的に構成されます。

これらは1つのドメインにのみ所属し、名前と親ドメイン (単一のドメインに割り当てられるドメイン階層) のリストによって一意に識別されます。

ドメインは HP Client Automation 内で定義され、HP Connect-It のスクリプトを使用して Asset Manager データベースへインポートされます。

これらのオブジェクトを記述する Asset Manager データベースのテーブル

コンピュータ (amComputer) とポートフォリオ品目 (amPortfolio)

Asset Managerデータベース内のこれらのオブジェクトの特性

[外部識別子] (ExtPfiId) フィールド値が空でなく、[機器のタイプ] (seComputerType) フィールドがドメインに等しい属性にリンクしている [ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルのレコードです。

コンピュータのグループ (デバイスのグループ)

コンピュータまたはグループのセット。

グループはHP Client Automation内で定義され、HP Connect-Itのスクリプトを使用してAsset Managerデータベースへインポートされます。

グループは、導入作業指示を作成するとき、コンピュータをフィルタするのに使用します。

特定資格によって、ソフトウェアを使用する権限をコンピュータグループに付与することができます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

コンピュータ (amComputer) とポートフォリオ品目 (amPortfolio)

Asset Managerデータベース内のこれらのオブジェクトの特性

[外部識別子] (ExtPfiId) フィールド値が空でなく、[機器のタイプ] (seComputerType) フィールドがコンピュータグループに等しい属性にリンクしている [ポートフォリオ品目] (amPortfolio) テーブルのレコードです。

メディア (Service)

ソフトウェアのインストールに必要なパラメータとファイル。

HP Client Automationで定義されるサービスに対応するメディア。

メディアを、HP Connect-Itシナリオを使用して、Asset Managerデータベースへインポートします。

メディアはソフトウェアパッケージとしてグループ化されます。

Asset Managerデータベース内のオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

ソフトウェアのインストールまたは使用 (amSoftInstall) とポートフォリオ品目 (amPortfolio)

オブジェクトの特性

[メディア] (bSetUpMedia) チェックボックスが選択されている属性にリンクしている [ソフトウェアのインストールまたは使用] (amSoftInstall) テーブル

のレコードで、**【構成管理メディア】**（bCMSservice）チェックボックスが選択されているモデルにリンクしています。

ソフトウェアパッケージ

メディアのセット。

ソフトウェアパッケージは、同じソフトウェアエンティティを参照するメディアをグループ化するために使用されます。

ソフトウェアパッケージは、導入作業指示を作成するとき、コンピュータをフィルタするのに使用します。

例えば、*MS Office*ソフトウェアパッケージには、*MS Word*と*MS Excel*のコンポーネントなどが含まれます。

ソフトウェアパッケージはAsset Manager内で定義されます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

依頼（amRequest）

Asset Managerデータベース内のこれらのオブジェクトの特性

ソフトウェアパッケージを考える場合、依頼テーブル内のレコードに次のように入力する必要があります。

- ステータス（seStatus）：標準依頼
- ソフトウェアパッケージ（bSoftPackage）オプションを選択

特定資格（ポリシー）

特定資格を使用して、メディアのユーザ権限を、ユーザアカウント、コンピュータ、コンピュータグループおよびドメインに割り当てることができます。

これらの特定資格は、Asset Managerデータベース内に導入作業指示も作成できるウィザードによって作成されます。

導入作業指示は、HP Connect-Itのシナリオによって、HP Client Automation転送され、Asset Managerデータベース内で更新されます。

Asset Managerデータベース内のオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

特定資格（amEntitlement）

オブジェクトの特性

【作業指示タイプ】（seWorkOrderType）フィールドが「その他」以外の値をもつ属性にリンクしていて、**【構成管理で使用】**（bAutomated）チェックボックスが選択されている**【作業指示】**（amWorkOrder）テーブルのレコード。

LANDesk Management Suiteの統合に特有の専門用語

スケジュールされたタスク

スケジュールされたタスクは、配信方法に従って、コンピュータ上にソフトウェア配布パッケージまたはスクリプトの配布タスクを記述します。

タスクはAsset Managerによって直接実行されません。HP Connect-Itシナリオによってソフトウェア配布ツールに転送されます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

スケジュールされたタスク (amESDTask)

配信方法

配信方法は、ソフトウェア配布パッケージまたはスクリプトをターゲットコンピュータに送信する方法を定義します。

配信方法は、ソフトウェア配布ツールで定義され、HP Connect-Itスクリプトを使ってAsset Managerデータベースにインポートされます。

配信方法は、配布タイプ (Targeted Multicast、プッシュ、ストラテジーなど) で区別できます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

配信方法 (amESDDelivMethod)

配布パッケージ

ソフトウェアのインストールに必要なパラメータとファイル

配布パッケージは、ソフトウェア配布ツールで定義され、HP Connect-Itシナリオを使ってAsset Managerデータベースにインポートされます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル

配布パッケージおよびスクリプト (amESDPackage)

スクリプト

ターゲットコンピュータで実行されるスクリプト

スクリプトは、ソフトウェア配布ツールで定義され、HP Connect-Itシナリオを使ってAsset Managerデータベースにインポートされます。

これらのオブジェクトを記述するAsset Managerデータベースのテーブル
配布パッケージおよびスクリプト (amESDPackage)

B 参考情報

メニュー、ナビゲーションバーおよびタブ

HP Client AutomationおよびLANDesk Management SuiteとAsset Managerの統合に使われるデータに、次のメニュー、タブ、リンクおよびフィールドを使用してアクセスできます。

表 B.1. メニューとタブ（HP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合の場合）

サブメニュー	メニューからアクセス可能なテーブル（ラベルとSQL名）	ソフトウェア配布モジュールおよび構成管理モジュール用に特別に設計されたタブ	重要なフィールドまたはリンク（専用タブページ外）	使用	参照するセクション
--------	-----------------------------	---------------------------------------	--------------------------	----	-----------

ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/IT機器] リンク）。

サブメニュー	メニューからアクセス可能なテーブル (ラベルと SQL名)	ソフトウェア配布モジュールおよび構成管理モジュール用に特別に設計されたタブ	重要なフィールドまたはリンク (専用タブページ外)	使用	参照するセクション
コンピュータ	コンピュータ (amComputer)	なし	外部識別子 (ExtPfiId)	コンピュータ、コンピュータグループおよびドメインを、ソフトウェア配布/構成管理ツールで照合更新するために使用されま す。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ターゲットコンピュータ [献 75] ■ ドメインをインポートする方法 [献 47]
[ツール] メニュー					
アクション/ 編集	アクション (amAction)	配布	タイプ (seActionType)	このテーブルのレコードの参照と編集	アクションおよびウィザード [献 109]
アクション/< アクション名>	該当なし	該当なし	該当なし	非コンテキストか、コンテキストがアクションの提案 選択したアクションのトリガが可能	アクションおよびウィザード [献 109]
[管理] メニュー					
画面一覧	該当なし	該当なし	該当なし	メインメニューを使ってアクセスできないテーブルにアクセス可能 こうしたテーブルは通常、じかに変更する必要がないため、タスクは管理者に限定されています。	

表 B.2. メニューとタブ (HP Client Automation)

サブメニュー	メニューによってアクセスされるテーブル (テーブル名とSQL名)	HP CM統合モジュール専用のタブ	重要なフィールドまたはリンク (専用のタブページ以外で)	用途	参照するこのガイドのセクション
[ファイル] メニュー					
モジュールの起動	該当なし	該当なし	該当なし	ライセンスファイルで許可されていれば、HP CM統合モジュールを起動/停止できます。次のメニューが非表示の場合に、このメニューを使用します。	Windowsクライアントでデータベースにアクセスするときに必要なモジュールの起動 [献 30]
ナビゲーションバーにある [構成管理] リンク					
ポートフォリオ品目	ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	なし	外部識別子 (ExtPfiId)	サードパーティ製ソフトウェアアプリケーション内のポートフォリオ品目の識別に使用する識別子	
属性	属性 (amNature)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ 機器のタイプ (CompType) ■ ユーザアカウント (UserAcct) ■ メディア (StUpMch) 	コンピュータグループ、ドメイン、ユーザアカウントおよびメディアであるポートフォリオ品目の識別に使用される属性を作成するために使用されます。	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータグループ [献 46] ■ ドメイン [献 47] ■ ユーザアカウント [献 45] ■ メディア [献 48]

サブメニュー	メニューによってアクセスされるテーブル (テーブル名とSQL名)	HP CM統合モジュール専用のタブ	重要なフィールドまたはリンク (専用のタブページ以外で)	用途	参照するこのガイドのセクション
モデル	モデル (amModel)	なし	構成管理メディア (bCMService)	HP Client Automationとの Asset Manager の統合で管理されるメディアを区別するために使用されます。	メディア [献 48]
ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/IT機器] リンク)。					
コンピュータグループ	クライアントリソースの関係テーブル (amClientResource)	なし	更新実行中 (bUpdate)		
ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ] リンク					
社内依頼	依頼明細 (amReqLine)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアパッケージ (UseClient) ■ メディア (UseMedia) ■ 特定資格 (UseSkill) ■ ソフトウェアのインストール/削除に関連付けられているタスク (AmInstall) 	インストール、削除、権限付与または権限削除の対象となるメディア、ソフトウェアパッケージ、特定資格の選択に使用します。	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]
社内依頼	依頼 (amRequest)	なし	ソフトウェアパッケージ (bSoftPackage)	ソフトウェアパッケージに対応する標準依頼を識別するために使用します。	ソフトウェアの追加または削除 [献 51]
ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合] リンク)。					

サブメニュー	メニューによってアクセスされるテーブル (テーブル名とSQL名)	HP CM統合モジュール専用のタブ	重要なフィールドまたはリンク (専用のタブページ以外で)	用途	参照するこのガイドのセクション
メディア	ソフトウェアのインストール/使用 (amSoftInstall)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ ソフトウェアパッケージ (CanInstall) ■ 自動導入 (AutoInst) ■ 使用可能メディア (UseMedia) ■ 強制導入 (AutoInst) 	メディアを含むソフトウェアパッケージ。	メディア [献 48]
導入タスク	導入タスク (amCMInstTask)	すべて	すべて	ソフトウェアのインストール/削除依頼を作成するとき、またはソフトウェアの使用権限の付与/削除を依頼するときに作成されるタスク。	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]
特定資格	特定資格 (amEntitlement)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ 構成管理に使用します (AutoInst) ■ メディア (UseMedia) ■ 承認 (AutoInst) 	構成管理に対して定義される特定資格の詳細を指定するために使用します。	ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除 [献 55]
導入作業指示	作業指示 (amWorkOrder)	なし	<ul style="list-style-type: none"> ■ 識別子 (AutoInst) ■ ステータスメッセージ (AutoInst) ■ 一時グループ (AutoInst) 	ソフトウェアのインストール/削除依頼を作成するとき、またはソフトウェアの使用権限の付与/削除を依頼するときに作成される作業指示。	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]

表 B.3. メニューとタブ (LANDesk Management Suite)

サブメニュー	メニューによってアクセスされるテーブル (テーブル名とSQL名)	ソフトウェア配布モジュール専用のタブページ	重要なフィールドまたはリンク (専用のタブページ以外)	用途	参照するこのガイドのセクション
[ファイル] メニュー					
モジュールの起動	該当なし	該当なし	該当なし	ライセンスファイルで許可されていれば、LANDesk統合モジュールを起動/停止できます。アプリケーションで次のメニューを表示できない場合に使用するメニューです。	Windowsクライアントでデータベースにアクセスするときに必要なモジュールの起動 [献 72]
ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/LANDesk統合] リンク)。					
配信方法	配信方法 (amESDMethod)	すべて	すべて	このテーブルのレコードの参照と編集	配信方法 [献 77]
配布パッケージおよびスクリプト	配布パッケージおよびスクリプト (amESDPackage)	すべて	すべて	このテーブルのレコードの参照と編集	配布パッケージおよびスクリプト [献 76]
スケジュールされたタスク	スケジュールされたタスク (amESDTask)	すべて	すべて	このテーブルのレコードの参照と編集	Asset Managerでのスケジュールされたタスクの作成 [献 79]
ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/IT/IT機器] リンク)。					
コンピュータ	コンピュータ (amComputer) テーブル	なし	スケジュールされたタスクのターゲット (ESDComputer)	スケジュールされたタスクのターゲットコンピュータを識別します。	ターゲットコンピュータ [献 75]

ツールバーアイコン

Asset ManagerとHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に、ツールバーアイコンを利用できません。

インタフェースオプション

Asset ManagerとHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合のためのインタフェースオプションはありません。

テーブル

以下のテーブルは、Asset ManagerとHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合にリンクしています。

表 B.4. テーブル (HP Client Automationとの統合)

テーブルのラベル	テーブルのSQL名	テーブルへのアクセスに使われるナビゲーションバーのリンク	参照するこのガイドのセクション
<i>Asset ManagerとHP Client Automationとの統合に明確にリンクしているテーブル</i>			
導入タスク	amCMTargetTask	ポータフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/導入タスク	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]
<i>Asset ManagerとHP Client Automationとの統合に間接的にリンクしているテーブル</i>			
属性	amNature	ポータフォリオ管理/属性	<ul style="list-style-type: none">■ コンピュータグループ [献 46]■ ドメイン [献 47]■ ユーザアカウント [献 45]■ メディア [献 48]
ソフトウェアのインストール/使用	amSoftInstall	ポータフォリオ管理/IT/導入とリリース/ソフトウェアのインストールメディア	メディア [献 48]

テーブルのラベル	テーブルのSQL名	テーブルへのアクセスに使われるナビゲーションページのリンク	参照するこのガイドのセクション
ポートフォリオ目録	amPortfolio	ポートフォリオ管理/ポートフォリオ目録	
モデル	amModel	ポートフォリオ管理/モデル	メディア [献 48]
クライアント-リソースの関係	amClientResource	ポートフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータグループ	
依頼明細	amReqLine	ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/社内依頼	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]
依頼	amRequest	ポートフォリオ管理/拡張ポートフォリオ/社内依頼	ソフトウェアの追加または削除 [献 51]
特定資格	amEntitlement	ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/特定資格	ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除 [献 55]
作業指示	amWorkOrder	ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/導入作業指示	ソフトウェアの追加または削除、ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与または削除 [献 51]

表 B.5. テーブル (LANDesk Management Suiteとの統合)

テーブルのラベル	テーブルのSQL名	テーブルへのアクセスに使われるナビゲーションページのリンク	参照するセクション
<i>Asset Manager</i> と <i>LANDesk Management Suite</i> との統合に明確にリンクしているテーブル			
配信方法	amESDDelivMethod	ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/ LANDesk統合/ 配信方法	配信方法 [献 77]

テーブルのラベル	テーブルのSQL名	テーブルへのアクセスに使われるナビゲーションページのリンク	参照するセクション
配布パッケージおよびスクリプト	amESDPackage	ポータフォリオ管理/IT/導入とリリース/ LANDesk統合/ 配布パッケージおよびスクリプト	配布パッケージおよびスクリプト [献 76]
スケジュールされたタスクのターゲット	amESDComputerTask	Windowsクライアントの [管理/画面一覧] メニュー	Asset Managerでのスケジュールされたタスクの作成 [献 79]
スケジュールされたタスク	amESDTask	ポータフォリオ管理/IT/導入とリリース/ LANDesk統合/ スケジュールされたタスク	Asset Managerでのスケジュールされたタスクの作成 [献 79]
<i>Asset ManagerとLANDesk Management Suiteとの統合に間接的にリンクしているテーブル</i>			
アクション	amAction	管理/アクション	
コンピュータ	amComputer	ポータフォリオ管理/IT/IT機器/コンピュータ	ターゲットコンピュータ [献 75]

テーブル間の依存関係

Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合には、Asset Managerデータベースの一部のテーブルが必要です。これらのテーブル間にはリンクがあります。こうしたリンクの存在により、テーブルを特定の定義された順番で入力すると有効です。

次に提案する順番は必須ではありません。Asset Managerでは、リンクされたテーブルに見つからなかったレコードを必要に応じて作成することができます。レコードの作成順を最適化するテーブルがあります。テーブルには、どの依存関係テーブルに値を入力する必要があるかが示されています。

Asset ManagerとHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に直接リンクする二次的なテーブルは除外してあります。これらのテーブルには、メインテーブルにレコードを作成したときに値が自動的に入力されます。

表 B.6. テーブル間の依存関係 (HP Client Automationとの統合)

テーブル (テーブル名とSQL名)	前もって入力する必要のあるテーブル (テーブル名とSQL名)
リポジトリ	
場所 (amLocation)	
部署と従業員 (amEmplDept)	
属性 (amNature)	▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「参考情報」の章、「テーブルの関係」のセクションを参照してください。
モデル (amModel)	▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「参考情報」の章、「テーブルの関係」のセクションを参照してください。
コンピュータ (amComputer)	▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「参考情報」の章、「テーブルの関係」のセクションを参照してください。
ポートフォリオ品目 (amPortfolio)	▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「参考情報」の章、「テーブルの関係」のセクションを参照してください。
ソフトウェアのインストール/使用 (amSoftInstall)	▶ 『ソフトウェア資産』ガイドの「リファレンス」の章、「テーブルの関係」のセクションを参照してください。
[クライアント-リソースの関係] テーブル (amClientResource)	コンピュータ (amComputer)
依頼 (amRequest)	ソフトウェアのインストール/使用 (amSoftInstall)
依頼明細 (amReqLine)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 依頼 (amRequest)
特定資格 (amEntitlement)	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータ (amComputer) ■ ポートフォリオ品目 (amPortfolio)
タスクの導入	
作業指示 (amWorkOrder)	モデル (amModel)
導入タスク (amCMTargetTask)	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータ (amComputer) ■ 作業指示 (amWorkOrder)

表 B.7. テーブル間の依存関係 (LANDesk Management Suiteとの統合)

テーブル (ラベルとSQL名)	事前に入力するテーブル (ラベルとSQL名)
レポジトリ	
コンピュータ (amComputer)	▶ 『ポートフォリオ』ガイドの「リファレンス」の章、「Dependencies between tables (テーブル間の依存関係)」のセクションを参照してください。
配布パッケージおよびスクリプト (amESDPackage)	
配信方法 (amESDDelivMethod)	

テーブル（ラベルとSQL名）	事前に入力するテーブル（ラベルとSQL名）
タスクのスケジュール	
スケジュールされたタスク（amESDTask）	<ul style="list-style-type: none"> ■ コンピュータ（amComputer） ■ 配布パッケージおよびスクリプト（amESDPackage） ■ 配信方法（amESDDelivMethod）

リストデータ

特定のフィールドでは値を入力する際に、リストから値を選択することができます。こうしたリストをリストデータと呼びます。

ナビゲーションの [管理/システム/リストデータ] リンクを使用して、[リストデータ]（amItemizedList）テーブルにアクセスできます。

Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に、次のリストデータを使用します。

表 B.8. リストデータ（HP Client Automationとの統合）

リストデータの識別子	リストデータを使って入力するフィールド（フィールド名とSQL名）	フィールドが属するテーブル（テーブル名とSQL名）
amCMTargetTaskCode	実行結果（JobStatusCode）	導入タスク（amCMTargetTask）
amCMTargetTaskState	処理ステータス（JobStatusState）	導入タスク（amCMTargetTask）

表 B.9. リストデータ（LANDesk Management Suiteとの統合）

このリストデータの識別子	リストデータから入力されるフィールド（ラベルとSQL名）	フィールドがあるテーブル（ラベルとSQL名）
amESDDelivType	タイプ（DelivType）	配信方法（amESDDelivMethod）
amESDPackageType	タイプ（PkgType）	配布パッケージおよびスクリプト（amESDPackage）

リストデータの使用方法については、『Asset Managerの高度な使い方』ガイドの「リストデータ」の章を参照してください。

特殊フィールド

HP Client Automationとの統合

Asset ManagerとHP Client Automationとの統合には、特定の特殊フィールドを使用します。

これらの特殊フィールドは、特定のフィールドのデフォルト値で使用されています。

ナビゲーションバーの【管理／システム／特殊フィールド】リンクを使用して、【特殊フィールド】（amCalcField）テーブルにアクセスできます。

以下の特殊フィールドはHP Client Automationに直接リンクします。

表 B.10. 特殊フィールド（HP Client Automationとの統合）

特殊フィールドの名前	特殊フィールドのSQL名	特殊フィールドの適用先テーブル（テーブル名とSQL名）	用途
サービスに十分なライセンス権限があります	OVCMSserviceHasEnoughLicense	ポートフォリオ品目（amPortfolio）	特殊フィールドは、ポートフォリオ品目の【 Verify license （ライセンスを検証）】ページに表示されます。

LANDesk Management Suiteとの統合

Asset ManagerとLANDesk Management Suiteとの統合に特殊フィールドを使用しません。

カウンタ

Asset ManagerとHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合にカウンタを使用しません。

アクションおよびウィザード

Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に、共通タスクを自動化するアクションを使用します。

ナビゲーションバーの【管理／アクション】リンクを使用して、【アクション】(amAction) テーブルにアクセスできます。

アクションの使用方法については、『Asset Managerの高度な使い方』ガイドの「アクション」の章を参照してください。

スクリプトの作成方法については、『管理』ガイドの「Using scripts (スクリプトの使用)」の章を参照してください。

APIの使用法については、『プログラマーズリファレンス』ガイドを参照してください。

新しいアクションを作成するか、既存のアクションをカスタマイズできます。

HP Client Automationとの統合

【ドメイン】フィールドでシンプルフィルタを使うことで、Asset ManagerのHP Client Automationとの統合にリンクしたアクションを簡単にフィルタすることができます。「/ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/」の値を検索してください。

Asset ManagerのHP Client Automationとの統合にリンクしているアクションと、このガイドに説明されているアクションについては、以下を参照してください。

表 B.11. アクションとウィザード (HP Client Automationとの統合)

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するこのガイドのセクション
特定資格を削除...	sysOVCMContextRemoveEntitlement	ウィザード	amEntitlement	ソフトウェアを使用する権限の削除 [献 56]
特定資格を作成/削除...	sysOVCMEntitlement	ウィザード	(テーブルなし)	ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除 [献 55]
コンピュータでソフトウェアを追加/削除...	sysOVCMGeneric	ウィザード	(テーブルなし)	コンピュータからソフトウェアを削除 [献 54]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するこのガイドのセクション
場所でソフトウェアを追加/削除...	sysOVCMLocations	ウィザード	(テーブルなし)	場所でソフトウェアを追加/削除 [献 51]
コンピュータからソフトウェアを削除...	sysOVCMLocations	ウィザード	amComputer	コンピュータでソフトウェアを追加/削除 [献 53]
ユーザでソフトウェアを追加/削除...	sysOVCMServices	ウィザード	(テーブルなし)	ユーザでソフトウェアを追加/削除 [献 52]

LANDesk Management Suiteとの統合

【ドメイン】 (Domain) フィールドでシンプルフィルタを使うことで、Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合にリンクしたアクションを簡単にフィルタすることができます。「/ポートフォリオ管理/IT/導入とリリース/HP構成管理統合/」の値を検索してください。

Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合に直接リンクしているアクションと、このガイドに説明されているアクションについては、以下を参照してください。

表 B.12. アクションとウィザード (LANDesk Management Suiteとの統合)

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するセクション
スケジュールされたタスクを転送	sysESDInstanceStart	スクリプト	(システムテーブル)	新しいスケジュールされたタスクのLANDesk Management Suiteへの転送 [献 81]
スケジュールされたタスクにターゲットを追加...	sysESDTaskAddComputer	ウィザード	(システムテーブル)	スケジュールされたタスクをウィザードなしで作成する [献 79]

アクション名	アクションのSQL名	アクションのタイプ	アクションのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するセクション
コンピュータにパッケージ/スクリプトを配布...	sysESDGeneric	ウィザード	(テーブルなし)	コンピュータセットのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用) [献 80]
場所にパッケージ/スクリプトを配布...	sysESDLocation	ウィザード	(テーブルなし)	選択した場所にあるコンピュータのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用) [献 80]
ユーザにパッケージ/スクリプトを配布...	sysESDServices	ウィザード	(テーブルなし)	所定ユーザのコンピュータのスケジュールされたタスクを作成する (ウィザードを使用) [献 80]

Asset Manager Automated Process Managerモジュール

HP Client Automationとの統合

Asset ManagerのHP Client Automationとの統合に専用のAsset Manager Automated Process Managerモジュールはありません。

ヒント:

Asset Manager Automated Process Managerを使用してHP Connect-Itのシナリオのトリガを自動化するには、独自のHP Connect-Itのシナリオを作成する必要があります。

LANDesk Management Suiteとの統合

Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合に使用されるAsset Manager Automated Process Managerモジュールを以下に示します。

- Enterprise Discovery棚卸結果を使用してデータベースを更新 (EdAc)

注意:

このモジュールは、HP Device and Dependency Mappingを使用してコンピュータのスキャンを行う場合にのみ使用されます。

- ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの作成 (SWDCTask)
 - ソフトウェアパッケージと配信方法データベースの更新 (SWDRepo)
 - ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの結果の更新 (SWDUTask)
- これらのモジュールの詳細については、『管理』ガイドの「*Asset Manager Automated Process Manager*」の章、「*Asset Manager Automated Process Manager*でモニタするモジュールを設定する」のセクションを参照してください。

システムデータと専門分野データ

Asset Managerには標準データセットが付属しています。

これらのデータセットは、次のいずれかのグループに含まれています。

- **システムデータ**：正しく機能するためにAsset Managerアプリケーションに必要なデータ
- **専門分野データ**：自分の判断で本番データベースに挿入できるデータ
このデータは機能グループに分かれています。
- **サンプルデータ**：Asset Managerに慣れるために有効なデータ

Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に明確にリンクしているシステムデータ

Asset ManagerのHP Client Automationとの統合に関係するシステムデータには、以下のテーブルからのデータが含まれます。

- クライアント-リソースの関係のタイプ (amCRType)
- アクション (amAction)
- 特殊フィールド (amCalcField)

Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合に関係するシステムデータには、以下のテーブルからのデータが含まれます。

- 画像 (amImage)
- アクション (amAction)

システムデータは、Asset Managerのデモ用データベースに自動的に含まれます。

システムデータは、本番データベースの作成時に本番データベースに自動的に含まれます。

Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に明確にリンクしている専門分野データ

Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合に直接リンクしている専門分野データは存在しません。

Asset ManagerのHP Client Automationとの統合に関する**専門分野データ**には、以下のテーブルからのデータが含まれます。

- ワークフロースキーム (amWfScheme)
- アクション (amAction) テーブル

専門分野データは、Asset Managerのデモ用データベースに自動的に含まれます。

Asset Manager Application Designerでこのオプションを選択すると、専門分野データが本番データベースに含まれます。

レポート

Asset Managerは、Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に関するレポートが得られません。

API

HP Client Automationとの統合

Asset ManagerのAPIはいずれも、Asset ManagerのHP Client Automationとの統合にリンクしていません。

LANDesk Management Suiteとの統合

特定のAsset ManagerのAPIは、Asset ManagerのLANDesk Management Suiteとの統合にリンクしています。

*LANDesk統合*モジュールに関するAPIのリストと記述を取得するには、『*プログラマーズリファレンス*』ガイドの「索引」、「使用可能な関数 - 「ポートフォリオ」モジュール」を参照してください。

ビュー

デフォルトのビューはいずれも、Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合のために作られていません。

その他のドキュメント

このガイドには、Asset ManagerのHP Client AutomationおよびLANDesk Management Suiteとの統合に直接リンクしている情報は含まれていません。このガイドに記載されていない関連情報については、次のドキュメントを参照してください。

表 B.13. その他のドキュメント - リスト

ドキュメント	以下についての情報を提供します。
インストールとアップグレード	■ Asset Managerのインストール
ユーザインタフェース	■ アプリケーションの標準インタフェース
ポर्टフォリオ	■ コンピュータの管理 ■ 属性とモデルの動作
ソフトウェア資産	■ ソフトウェアのインストール ■ ソフトウェアカウンタ
管理	■ リストデータの管理 ■ ウィザードの使用 ■ スクリプトの作成 ■ フィールドのカスタマイズ ■ Asset Manager Automated Process Managerの使用
フィールドとリンクのヘルプ	■ データベースのフィールドとリンクの使用
プログラマーズリファレンス	■ APIの使用
Structure of the database	■ データベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスのリスト ■ Asset Managerによって自動的にトリガされるエージェント
主要テーブル	■ 場所の管理 ■ 従業員とサービスの管理 ■ 任意管理項目の管理 ■ その他
AssetManagerの高度な使い方	■ ウィザードの使用 ■ 特殊フィールドの使用 ■ リストデータの管理 ■ スクリプトの作成
標準オンラインヘルプ	■ アプリケーション全体の操作

ワークフロースキーム

HP Client Automationとの統合

HP Client Automationとの統合では、複数のワークフロースキームを使用して特定のプロセスを管理します。

ナビゲーションバーの「管理/ワークフロー/ワークフロースキーム」リンクを使用して、「ワークフロースキーム」(amWfScheme) テーブルにアクセスできます。

「リファレンス」(Ref) フィールドでシンプルフィルタを使うことで、HP Client Automationとの統合にリンクしているワークフロースキームを容易にフィルタすることができます。

OVCMで始まる値を検索します。

以下のワークフロースキームは、HP Client Automationとの統合に直接リンクします。

表 B.14. ワークフロースキーム - リスト

ワークフロースキーム名	ワークフロースキームの参照番号	ワークフロースキームのコンテキスト (テーブルのSQL名)	参照するこのガイドのセクション
ソフトウェアのインストールや削除の依頼を承認	OVCM_REQ_APPR	依頼 (amRequest)	承認ワークフロースキームの設定 [献 32]

ワークフローの使用の詳細については、『AssetManagerの高度な使い方』ガイドの「ワークフロー」の章を参照してください。

新しいワークフロースキームを作成するか、既存のワークフロースキームをカスタマイズすることができます。

LANDesk Management Suiteとの統合

LANDesk Management Suiteとの統合にワークフロースキームを使用しません。

索引

- アイコン, 103
- アクション, 109
- インストール
 - Apache ANT 1.6.5, 37
 - Apache AXIS 1.2, 37
 - Asset Manager, 71, 29
 - Asset Manager Web, 36
 - HP Client Automation, 33
 - HP Connect-It, 73, 33
 - HP Device and Dependency Mapping, 73
 - Java J2SE v 5.0 JDK, 36
 - LANDesk Management Suite, 73
- インタフェースオプション, 103
- インタフェース - オプション, 103
- ウィザード, 109
- オブジェクト間の相互作用, 26
- オプションのコンポーネント, 35
- カウンタ, 108
- カスタマイズ, 39
- コンピュータ
 - コンピュータを参照する場所, 43
 - コンピュータを参照する理由, 43
 - 参照の方法, 44
- コンピュータグループ
 - コンピュータグループを参照する場所, 46
 - コンピュータグループを参照する理由, 46
 - 参照の方法, 46
 - 定義, 93
- コンピュータのインポート, 67, 64
- コンピュータのスキャン, 64
- サービス
 - メディアを参照する場所, 48
 - メディアを参照する理由, 48
 - 参照の方法, 48
- システムデータ, 112
- ジョブ
 - ステータスを自動的に更新, 59
 - 実行のチェック, 59
 - 定義, 91
- すぐに転送 (ウィザードオプション), 81
- スキャンツール, 35
- スクリプト
 - Asset Managerでのインポート, 68, 65
 - 作成, 67, 64
 - 参照する場所, 76
 - 参照する理由, 76
 - 参照方法, 77
 - 定義, 95
 - 配布, 79
- スケジュールされたタスク

- Asset Managerでの作成, 79
 - ウィザードなし, 79
 - ウィザードの使用、コンピュータ用, 80
 - ウィザードの使用、ユーザ用, 80
 - ウィザードの使用、場所用, 80
- LANDesk Management Suiteへの転送, 81, 68, 65
- LANDesk Management Suiteへの転送のチェック, 81
- ステータスの更新, 68, 65
- ステータスの自動的な更新, 83
- 作成, 68, 65
- 実行, 68, 65
- 実行のチェック, 82
- 定義, 95
- ステータス (Asset Managerフィールド), 82
- ソフトウェアアプリケーションの使用権限の付与と付与の削除, 51
- ソフトウェアアプリケーションを使用する権限
 - Asset Managerからの削除, 55
 - Asset Manager内での付与, 55
- ソフトウェアの追加または削除, 51
- ソフトウェアパッケージ
 - ソフトウェアパッケージの作成方法, 49
 - ソフトウェアパッケージを参照する場所, 49
 - ソフトウェアパッケージを参照する理由, 49
 - メディア
 - メディアをソフトウェアパッケージにリンク, 50
 - 定義, 94
 - 導入, 51
- ソフトウェアパッケージと配信方法データベースの更新 (Asset Manager Automated Process Managerモジュール), 77, 77
- ソフトウェアパッケージまたはスクリプトの配布, 79
- ソフトウェア配布で使用されるテーブル, 69
- ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクの結果を更新 (Asset Manager Automated Process Managerモジュール), 83
- ソフトウェア配布のスケジュールされたタスクを作成 (Asset Manager Automated Process Managerモジュール), 81, 81
- ソフトウェア配布の導入タスクを作成 (Asset Manager Automated Process Managerモジュール), 60, 58
- ターゲットコンピュータ
 - Asset Managerでのインポート, 67, 64
 - LANDesk Management Suiteでの宣言, 67, 64
 - スキャン, 64
 - 参照する場所, 75
 - 参照する理由, 75
 - 参照方法, 76
 - 識別, 67, 64
- ターゲットコンピュータの識別, 67, 64
- タスクのステータスのコード (Asset Managerフィールド), 59
- タスクのステータスのメッセージ (Asset Managerフィールド), 59
- タスクのステータスの状態 (Asset Managerフィールド), 60, 59, 58
- タスクのステータス (Asset Managerフィールド), 82
- タブページ, 97
- ツール, 103
- ツールバー, 103
- テーブル, 103
 - テーブル間の依存関係, 105
- データベース
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 31
 - 新しいデータベース, 31
- ドメイン
 - ドメインを参照する場所, 47
 - ドメインを参照する理由, 47
 - 参照の方法, 47
 - 定義, 92
- ナビゲーションバー, 97
- ナビゲーションバーリンク, 97
- パッケージ/スクリプトをコンピュータに配布 (アクション), 68, 65
- パッケージ/スクリプトをユーザに配布 (アクション), 68, 65

- パッケージ/スクリプトを場所に配布（アクション）, 68, 65
 - ビュー, 113
 - マニュアル, 114
 - メディア
 - メディアを参照する場所, 48
 - メディアを参照する理由, 48
 - 定義, 93
 - メニュー, 97
 - ユーザアカウント
 - ユーザアカウントを参照する場所, 45
 - ユーザアカウントを参照する理由, 45
 - 参照の方法, 45
 - 定義, 92
 - ライセンス権限コンプライアンスモジュール, 37
 - リストデータ, 107
 - レポート, 113
 - ワークフロー, 115
 - ワークフロースキーム, 115
 - 外部データ, 30
 - 概要, 19
 - 参考, 43
 - 参照, 75
 - 実装, 37
 - 承認ワークフロースキームの設定, 32
 - 専門分野データ, 112, 31, 31
 - 転送ステータス（Asset Managerフィールド）, 82, 81
 - 転送ステータス（フィールド）, 81
 - 転送（ボタン）, 81
 - 導入タスク
 - Asset Manager内で作成, 51
 - ウィザードをコンピュータに対して使用, 54
 - ウィザードをユーザに対して使用, 52
 - ウィザードを場所に対して使用, 51
 - HP Client Automationへの転送, 59
 - HP Client Automationへの転送のチェック, 58
 - 定義, 92
 - 導入プロセス, 22
 - 導入作業指示
 - HP Client Automationへの転送, 58
 - HP Client Automationへの転送のチェック, 60
 - 定義, 91
 - 特殊フィールド, 108
 - 特定資格, 51
 - 定義, 94
 - 配信方法
 - 作成, 67, 65
 - 参照する場所, 77
 - 参照する理由, 77
 - 参照方法, 77
 - 定義, 95
 - 配布パッケージ
 - Asset Managerでのインポート, 68, 65
 - 作成, 67, 64
 - 参照する場所, 76
 - 参照する理由, 76
 - 参照方法, 77
 - 定義, 95
 - 配布, 79
 - 配布プロセス, 63
 - 必要なコンポーネント, 29
 - 本番データベース, 72, 29
- A**
- Apache ANT 1.6.5
 - インストール, 37, 37
 - Apache AXIS 1.2
 - インストール, 37, 37
 - API, 113
 - Asset Manager
 - インストール, 71, 29
 - モジュール, 72, 30
 - ライセンス, 72, 30
 - 本番データベース, 72, 30, 29
 - Asset Manager Application Designer
 - 専門分野データ - インポート
 - 既存のデータベース, 31
 - 新しいデータベース, 31
 - Asset Manager Automated Process Manager, 111
 - 設定, 74, 36
 - Asset Manager Web Service
 - インストール, 36

Asset Managerモジュール, 72, 30
Asset Managerライセンス, 72, 30

D

Domain
定義, 92

E

edac.scn (HP Connect-Itシナリオ), 76, 64
Enterprise Discovery棚卸結果を使用してデータベースを更新します (Asset Manager Automated Process Managerモジュール)。, 76

G

Group of devices
定義, 93

H

HP Client Automation
インストール, 33, 33
HP Connect-It, 67, 64
インストール, 73, 33
HP Connect-Itシナリオ
設定, 73, 33
HP Device and Dependency Mapping, 64
インストール, 73

J

Java J2SE v 5.0 JDK
インストール, 36

L

LANDesk Management Suite
インストール, 73, 73
エージェント, 67, 64
LANDesk Management Suiteエージェント,
67, 64
ldap_active_directory_all.scn (HP Connect-It
シナリオ), 47, 46, 45, 44

ldap_directory_service_all.scn
(HP Connect-Itシナリオ), 47, 46, 45, 44
ldskac.scn (HP Connect-Itシナリオ), 76
LDStarTasks.scn (HP Connect-Itシナリオ), 81, 81, 81, 81, 68, 65
LDUpdateRepository.scn (HP Connect-Itシナリオ), 77, 77, 68, 65
LDUpdateTask.scn (HP Connect-Itシナリオ), 82, 68, 65

P

Policy
定義, 94

S

Service
定義, 93

U

User account
定義, 92

W

ws_groups_devices.scn (HP Connect-Itシナリオ), 47, 46, 44
ws_jobs.scn (HP Connect-Itシナリオ), 58, 58, 58
ws_policies.scn (HP Connect-Itシナリオ), 60, 60, 59
ws_services.scn (HP Connect-Itシナリオ), 48
ws_status.scn (HP Connect-Itシナリオ), 59